

## カリキュラム等編成部会

### 1 カリキュラム等編成部会のまとめ

カリキュラム等編成部会長 北條正司（理学部）

#### 1. カリキュラム等編成の経過

2009.6.5 第1回カリキュラム等編成部会

・カリキュラムマップ雛型の作成について

共通教育科目に係るカリキュラムマップ（雛型）の作成を各分科会長に依頼した。

スケジュールとしては、各分科会から提出された雛型を共通教育事務にて取りまとめた後、非常勤講師を除く平成21年度担当教員にカリキュラムマップ「授業科目の主題」「授業科目の到達目標」と該当する記号を記入するよう依頼した。

2009.11.26 第2回共通教育実施機構会議

平成22年度以降の新たな授業担当体制については、2009.9.28開催「教育改革実施検討本部会議」とその専門部会である2009.10.16開催「共通教育授業担当体制専門部会」において議論され、カリキュラム編成時期が迫っており、平成22年度からの実施を見送ることとし、平成23年度から新たな授業担当体制により実施することとなった。

これを受けて、事前に例年通りの方法によりカリキュラム編成を実施することとし、2009.12.4を目処に各分科会にカリキュラム編成を依頼した。（2009.11.5）

本会議では、昨年度授業担当体制を踏襲した「平成22年度「共通教育の授業担当体制」の基本方針について」により、カリキュラム編成を行うことが了承された。

2010.1.8 第2回カリキュラム等編成部会

・平成22年度カリキュラム編成について

2009.12.4を目処に各分科会から提出されたカリキュラム科目表について、本部会で審議し、枠組・担当体制ノルマについて了承された。未定部分については、早急に決定していただくとともに、実施機構会議にて了承を得ることとした。

2010.1.13 第4回共通教育実施機構会議

・平成22年度カリキュラム編成について

2010.1.8 第2回カリキュラム等編成部会で了承されたカリキュラム科目表について、未定部分を除き、枠組・担当体制ノルマについて了承された。

2010.1.25～2.10 シラバス入力

2010.3.9 第5回共通教育実施機構会議

・平成22年度カリキュラム編成について

前回、未定部分を含め、全てのカリキュラム科目表について、了承された。

2010.3.12 履修案内最終稿 作成

## 2. カリキュラム編成の方針及び主な変更点

### 1) 編成方針及び授業担当体制

平成22年度の授業担当体制については前述のとおり、昨年度までの授業担当体制を踏襲し、カリキュラム編成を行った。

初年次科目の「大学基礎論」「課題探求実践セミナー」「学問基礎論」については、各学部がその実施を担保し、実施する。

### 2) 主な変更点

本年度編成において、特に変更点はなかった。

### 3) 問題点・課題

・各分科会の分野別委員については、カリキュラム編成の際、分科会長からの指示に反応しない、学部内での調整に携わっていない場合もあり、編成作業に支障をきたしている分科会も見受けられた。

その要因としては分科会の開催が少なく行われていない分科会もあること、分科会開催については、昔から事務方の支援がなく、開催されているかどうかの把握ができていないことなどが挙げられる。

・学問基礎論については実施内容が学部によって違いがあり、評価方法についても差が見受けられる。実施3年目を迎える来年度については、その改善方法について検討する必要がある。

・農学部（物部キャンパス）開講科目について、履修人数が少ない科目があり、その必要性とともに、学生が履修したい（希望している）分野の教養科目を調査する必要がある。

・カリキュラム編成方針の提示及びカリキュラム編成のスタート時期が遅く、調整時間が少ないため、スタート時期を早める。

## 2 大学基礎論分科会

カリキュラム編成に関する報告

大学基礎論分科会長 菊地時夫（理学部）

### ・カリキュラム編成の経過

農学部で物部キャンパスでの開講の検討が行われたが見送られ、前年度と同様の形態での開講となった。また、一部に担当者の交代があったが、おおむね前年度の授業内容を引き継ぐ形となった。

### ・カリキュラム編成の変更・改善点

特になし。

### ・平成 22 年度への課題

農学部における物部キャンパス開講について引き続き検討する。

### 3 課題探求実践セミナー分科会

カリキュラム編成に関する報告 課題探求実践セミナー分科会長 石筒 覚（人文学部）

#### 1. カリキュラム編成の経過

課題探求実践セミナー分科会では、共通教育実施機構のカリキュラム編成方針に基づき、今年度の担当体制の踏襲した上で、編成作業を実施した。

#### 1 1月～12月 カリキュラム編成作業

学部開講課題探求実践セミナーについては、各学部に依頼し、それ以外のセミナーについては、各担当者に授業実施を依頼した。

#### 1月 カリキュラム編成作業終了

人文学部開講セミナー	3 題目
教育学部開講セミナー	1 題目
理学部開講セミナー	3 題目
医学部開講セミナー	2 題目
農学部開講セミナー	1 題目
自律協働入門	1 題目
地域協働入門	4 題目
自由探求学習	2 題目
国際協力入門	1 題目
学びを創る	1 題目
学びを考える	1 題目
（ 定員は授業ごとで異なる ）	

#### 2. 平成22年度カリキュラム編成のポイント

1) 新規授業題目として「学びを考える（第1学期開講）」を開設した。

2) 第1学期に受講に受講しなかった学生を主な対象とする地域協働入門 を引き続き開設した。

#### 4 学問基礎論分科会

##### カリキュラム編成に関する報告

学問基礎論分科会長 山口 晴生（農学部）

##### 1) カリキュラム等の編成の経過

平成 20 年度よりはじまった初年次科目「学問基礎論」について、平成 21 年度の取りまとめをおこなった。この科目は、前身の「日本語技法」と同様に各学部の責任体制のもとに実施された。来年度開講される学問基礎論として、人文学部、教育学部、理学部、医学部いずれも当年度を踏襲するかたちで開講される予定である。

1. 2010 年度コマ数と担当配分について
2. 開講科目名と担当教員の決定
3. 2010 年度コマ数と担当配分などの最終確認

##### 2) カリキュラムの変更・改善点

各学部で共通した大幅な経好・改善点については変更無い。各学部の裁量にまかせて、変更・改善できることは実施する。

##### 2) 平成 22 年度における実施を見据えた問題点と課題

本科目では、各学部概ねいずれも担当学部の専門に関する入門講義を実施した後、セミナー演習形式で学生がグループワークを行なう仕組みになっている。ただ、初年次科目のとしての統一感が欠けていることが指摘されている。また、統一性をもたせるにしても、実施内容や評価方法の差異が複雑に絡み合っているため、その複雑な様相をどう解決していくかが、問題点として浮かび上がってきており、同様の問題を抱えたままになっている。

さらに、プレゼンテーションのみでは日本語の技法能力を十分身につけることが難しく、フィードバックを実施するにしても、その点を踏まえて方法を考案することが問題である。

こういったカリキュラム等の中にそれぞれ位置づけていかなければならないのか、初年次科目である以上、全学的な視点からも検討していただくことを切に願うものである。

## 5 人文分野分科会

カリキュラム編成に関する報告

人文分野分科会長 杉谷 隆(人文学部)

### 1. 平成 21 年度カリキュラム編成の経過

2009.11.26 第 2 回共通教育実施機構会議において、H22 年度開講についてのいわゆる「ノルマ表」の提示があり、開講すべき科目数が確定する。

2009.11～12 分科会長発の依頼により人文学部内では「前年度どおり」の方針で H22 年度開講科目の集計を行った。しかし、教育学部では学部教授会で「ノルマ表」を承認のうえで担当者を決める(年度で交代する内規があるため)という作業が入るため、集計は翌年に持ち越された。以上をまとめ、事務部に提出した。

2010.01.13 第 4 回共通教育実施機構会議において集計表が提示された。なお未定部分については、その後に調整を行った。

### 2. 平成 21 年度カリキュラムの変更・改善点

カリキュラム編成を議題とした分科会活動を行う余裕がなく(カリキュラム・マップ作成や期末試験実施方法の変更などで追われたため)、「前年度どおり開講(ノルマ外 3 科目、農学部開講 3 科目をふくむ)」を踏襲し調整するのが精一杯であった。改善点はないが、いわゆるノルマ制に制度的な無理が生じており、科目担当者を選出するにあたって不満が大きいことは、分科会長が共通教育実施機構会議において発言した。

### 3. 平成 22 年度への課題

#### 1) ノルマ制の見直し

上述のとおり。教員個人で見れば、隔年 1 科目担当、毎年 1 科目担当、毎年 2 科目担当という負担の幅があり、強い不満が聞かれること。

#### 2) 農学部出講への裏付け

今年度問題になったことは、

(1) 農学部からの出講依頼が来ないかぎり行く必要はない、または、受講者数が少なく開講する意義がないという意見の教員がいたために、人選が難航したこと。

(2) 農学部事務部でコピーをとれるようにしたり、専門科目との時間割重複を避けるなど、農学部側からのサポートを保証してほしいという意見があったこと。

#### 3) 受講生数の制限

期末試験監督にからんで顕在化した問題は、そもそも多人数講義を制限しないことにもあるという不満が聞かれたこと。

#### 4) 上部会議からのカリキュラム編成方針の指示を、迅速に出していただくこと。

## 6 社会分野分科会

### 社会分野カリキュラム編成に関する報告

社会分野分科会長 稲田朗子（人文学部）

#### 1、カリキュラム編成の経過

カリキュラム等編成部会より、平成 21 年 11 月 5 日付メールにおいて、カリキュラム編成依頼及び「基本方針」が示された。平成 22 年度以降の共通教育カリキュラム編成については「教育改革実施検討本部会議」及びその専門部会で議論されていたが、その結果を待っていると編成作業が間に合わなくなるとの判断で、見切り発車的に各分科会で編成作業がスタートすることとなった。見切り発車的なスタートではあったのだが、結論からいうと、それでも遅きに過ぎた感が否めない。編成作業については、関係各位の献身的なご協力のもと、締切となる年内には一応終了させることができた（12 月 22 日提出、1 月 5 日一部修正の上確定）のであるが、「献身的な」協力を得られなければ終了できないようなタイトなスケジュール設定は、本来はすべきでない。また、従来から指摘されてきた問題についても、来年度以降の課題として積み残した（「3、課題」参照）。課題について十分に検討し、それをカリキュラム編成に反映できるようなスケジュール設定が必要であろう。

#### 2、平成 22 年度カリキュラム編成のポイント

「基本方針」が、「基本的には前年度を踏襲」ということでもあったため、大きな変更点はない。

平成 22 年度新規開講科目は下記の通りである（再開講は含まない）。  
教養科目：「社会調査入門 Ⅰ」、「社会調査入門 Ⅱ」

#### 3、課題

カリキュラム編成作業にあたって、授業担当教員等から出された課題を 3 点挙げておきたい。

1) 「共通教育に係る担当基本人数」( = ノルマ ) の教育学部・社会分野「5」は負担過剰となっており、見直しが必要。

2) 物部キャンパス開講「3」について見直しが必要。科目、開講曜日、開講時限の制約もあるため、担当できる教員が限られ、負担の公平性も問題。ニーズを把握した上で、必要な数を開講すべき。

3) 新規開講科目のチェック体制の整備。例年、タイトなスケジュールで編成作業が行なわれるため、新規開講科目へのチェックが不十分となりがちである。関係する学部、学科等のチェックを受けるような仕組みを考える必要がある。

以上、これまでの経緯もあり、簡単には解決できないかも知れないが、毎年カリキュラム編成の時期になると浮上する問題であるので、課題として挙げておく次第である。

## 7 生命・医療分科会

カリキュラム編成に関する報告 生命・医療分科会長 阿部 眞司（医学部）

### 1．平成21年度カリキュラム編成の経過

各学部担当教員とメールによる連絡調整を行い、カリキュラム編成の基本方針を確認した上で、下記の通り編成作業を行った。

- ・ 平成20年10月27日(月)：平成21年度健康Eの開講をしないことについて、生命・医療分科会委員によるメール会議を行い、部会として合意を得た。
- ・ 同11月6日(木)：カリキュラム編成部会へ要望書を提出した。
- ・ 平成21年1月9日(金)カリキュラム編成部会へ平成21年度開講授業題目表(共通教育様式)を提出した。
- ・ 同2月12日(木)：前任者から業務の引き継ぎを受けた。
- ・ 2月24日(火)：責任者あてに平成22年度授業計画策定の依頼を行った。
- ・ 3月9日(月)：すべての部局から授業計画が提出された。
- ・ 3月17日(火)：責任者宛に授業の実施依頼を行った。

### 2．平成21年度カリキュラムの変更・改善点

以下の理由から、平成21年度は医学科担当教員による「健康E」を開講しないこととした。

- (1) 平成20年度の共通教育授業担当体制については、医学部のカリキュラム編成が固まる前に医学科教員担当による健康Eの開講が決まっていたために、平成20年度のみ開講ということでは了解した経緯があった。
- (2) 学部間相互の授業担当コマ数の按分(バーター取り引き)は解消されたので、医学科教員が朝倉で講義をする義務は無い。
- (3) 健康C、Dの受講者が少ないことから、受講生をこれらに分散させることで、十分収容できる。

次に、開講曜日及び時間の決定に当たっては、時間割の移動を極力おさえ、混乱のないよう配慮した。従って、これまでの木曜日開講をベースとした時間割とした。また、偏ることなく広い視野にたつて授業を提供するという観点から、昨年同様、部局等のオムニバス形式とすることとした。

### 3．平成22年度への課題

昨年度から選択科目となったため、クラス間の受講者数の偏りが生じている。同時に開設される科目の人気にも左右されるため難しい課題であるが、医学科の学生に健康C、Dを推奨するなどの方策は可能だろう。授業内容については、担当部局の学問特性を生かしつつ、内容が偏ることなく編成したい。



## 8 自然分野分科会

カリキュラム編成に関する報告 自然分野分科会長 松井 透

### カリキュラム編成の経過

平成 21 年度と同様に，自然分野分科会はメール会議形式でのみ実施した．平成 22 年度開講授業題目の確定は，カリキュラム編成部会後に必要な作業を各学部の委員にメールにて依頼し，それらを集約する形で行った．分科会としての会議は一度も開催していないが，特に問題は起こらなかった．

- ・ 6 月 5 日 第 1 回メール会議
- ・ 6 月 11 日～6 月 19 日 自然分野カリキュラムマップ作成
- ・ 11 月 5 日からカリキュラム編成を開始
- ・ 12 月 22 日カリキュラム完成
- ・ 1 月 8 日の第 2 回カリキュラム編成部会で自然分野分科会カリキュラム了承

### カリキュラム編成のポイント

基本的に平成 21 年度と同様の授業担当体制でカリキュラム編成を行った．学部等ごとに来年度開講授業題目および担当教員の選出・取りまとめを行い，それらを集約した．

なお，平成 21 年度は社会分野として開講されていた「環境調査入門Ⅰ」および「環境フィールド自己分析」は，内容が自然科学系のため，平成 22 年度より自然分野へ移行することになった．

### 課題

基本的に平成 21 年度と同様の授業担当体制でカリキュラム編成を行ったため，大きな問題は生じなかった．

一部講義について，特殊事情を有する学部授業との関連による時間割編成の難しさや，急な非常勤講師の変更等があったものの，比較的スムーズに作業を行うことができた．

## 9 外国語分科会

カリキュラム編成に関する報告 外国語分科会長 吉門 牧雄（人文学部）

### 1. カリキュラム編成の経過

2009年4月 「英会話」・「大学英語入門」プレースメントテスト

2009年10月 「英会話」・「大学英語入門」プレースメントテスト

2009年11月 前年度に準拠して次年度のカリキュラム作成

2010年3月 「英会話」・「大学英語入門」集中講義実施

### 2. カリキュラムの変更・改善点

特になし

### 3. 2010年度への課題

さらなるカリキュラム改善にむけて具体案の検討が必要

## 10 キャリア形成支援科目

カリキュラム編成に関する報告 キャリア形成支援科目分科会長 高橋 俊（人文学部）

### カリキュラム編成活動

6月4日 第1回分科会（メール会議）

分科会の業務と今後の編成方針の確認

以降、数度にわたりメール会議

11月～12月 カリキュラム編成作業

1月 カリキュラム編成作業終了

### 問題点

#### 1) 教職分野との連携

本分科会は教職科目とキャリア科目に分かれるが、分科会で話し合われたのはもっぱらキャリア科目についてであり、教職科目との連携はできなかった。今後の課題となる。

#### 2) 分科会の構成

人文学部以外の分科会構成員はキャリア科目には関わっていない教員が多く、分科会としての活動がなかなか難しい状況にある。今後、他学部にもキャリア科目に関わる教員を増やし、連携する必要があると考える。

#### 3) 科目の設定

上記2とも関わるが、分科会として話し合う場がとりにくかったこともあり、科目についても「例年並み」として事後了承してもらう結果となった。次年度以降の課題としたい。

## 1 2 日本語・日本事情分科会

### カリキュラム編成に関する報告

日本語・日本事情分科会長 神崎 道太郎（総合教育センター）

#### 1) カリキュラム等の編成経過

9月～11月 カリキュラム等、分科会で話し合う内容についての提案の依頼と分科会日程調整（メールにて）

1. 2010年度コマ数と担当配分について
2. 開講科目名と担当教員の決定
3. 2010年度コマ数と担当配分、ならびに開講科目名と担当教員(曜日等を含む)最終確認

分科会としての会議は一度も開催しなかったが、とくに問題は起こらなかった。

#### 2) 問題点と今後の課題

カリキュラム編成の流れについては、基本的に前年度をベースに踏襲した。ただ、留学生の種別、能力の差、単位取得の必要性の有無等が、複雑に絡み合っているため、その複雑な様相をどう解決していくかが、問題点として浮かび上がってきており、同様の問題を抱えたままになっている。能力別に編成するか、また、一定の能力以上の学生のみ受講可能とするか、あるいは留学生の種別の特別編成にするか等、考えられるところではある。しかし、その判断は、本学の留学生施策とも絡み単純に分科会のみでの判断でできることとできないことがある。事実できないことの方が多い。正規生だけの問題でもなく、大学間協定、あるいは今後どのようにこの日本語・日本事情科目を活用するか等、多岐にわたる事項を検討しなければならない。

さらに、経済産業省のプログラムとしてビジネス日本語も二年半を経過し、新たな局面を迎え、新規プログラムと旧プログラムとが同時並列的に走り始めた。有能な留学生を日本の企業へ送り出すという使命も望まれている。こういったカリキュラム等の中にそれぞれ位置づけていかなければならないのか、全学的な視点からも検討していただくことを切に願うものである。

# 自己点検評価活動報告

## 3 - 1 自己点検評価活動の全体的状況

自己点検評価部会部会長 大石達良(人文学部)

### 1. 今年度の自己点検評価活動の特徴

今年度の自己点検評価部会では、(1)教育力向上3カ年計画に基づく「5・14週目アンケート」を用いた「授業改善アクションプラン」による自己点検評価活動、(2)新設授業科目に関する自己点検評価活動、(3)成績評価に関する自己点検評価活動、(4)各分科会の問題意識に応じた各分科会独自の自己点検評価活動、を活動の柱として設定した。

(1)の「授業改善アクションプラン」は、多くの授業で取り組みがなされた。(2)の新設授業科目の自己点検評価活動は、大学基礎論・学問基礎論・課題探求実践セミナーで、それぞれ、独自アンケート・「5・14週目アンケート」・学期末アンケートを行うなどの形で実施された。(3)の成績評価に関する自己点検評価活動は、今年度は取り組むことができなかった。来年度の課題としたい。(4)の各分科会独自の自己点検評価活動は、それぞれの分野の授業特性や分科会の問題意識に応じて、FD活動とも連動させながら、学期末アンケートなどの形で実施された。

### 2. 「授業改善アクションプラン」による自己点検評価活動

#### (1)「授業改善アクションプラン」の実施

共通教育実施機構では、共通教育授業を担当する全教員が2008～2010年度の3年間に1回は「5・14週目アンケート」「相互授業参観」「授業ピュアレビュー」のいずれかによる「授業改善アクションプラン」を実施するという「3カ年計画」を推進している。この「3カ年計画」を実行するために、今年度の共通教育実施機構は、各教員が「授業改善アクションプラン」を可能な限り2009年度内に実施するという活動計画を策定した。

共通教育全体の活動計画を受け、自己点検評価部会でも、今年度、できるだけ多くの共通教育授業担当教員に「5・14週目アンケート」に基づく「授業改善アクションプラン」を経験してもらうことを活動方針の重点課題とした(なお「相互授業参観」と「授業ピュアレビュー」に基づく「授業改善アクションプラン」はFD部会が担当)。

今年度の「授業改善アクションプラン」は、以下の4ステップで進められた。「5週目アンケート」を実施(5週目)。結果を分析して「中間アクションプラン」を作成し、授業中に学生にも提示(7週目)。「14週目アンケート(授業改善検証アンケート)」を実施(14週目)。結果を分析して「最終アクションプラン(次年度に向けたアクションプラン)」を作成(授業期間後)。昨年度は上記～の3ステップで行っていたが、今年度から「14週目アンケート(授業改善検証アンケート)」の結果を分析して次年度授業の改善に

つなげる のステップを新たに付け加えた。

各教員の「授業改善アクションプラン」の実施は、共通教育主管からの実施依頼文章を送付した後は、基本的に各教員の自主性に任せた。ただし、分科会によっては、分科会関連授業で「授業改善アクションプラン」を実施することを方針として掲げ、授業担当教員に実施を積極的に呼びかけたケースもあった。

結果として、「授業改善アクションプラン」に取り組んだ授業は、「5週目アンケート」を行ったのが136授業（1学期77授業、2学期59授業）、そのうち「最終アクションプラン（次年度に向けたアクションプラン）」作成まで行ったのが111授業（1学期59授業、2学期52授業）であった（後掲の資料3-1-2参照）。

## (2)「授業改善アクションプラン」実施の評価

共通教育では「授業改善アクションプラン」を広い意味でのFDの一環として位置づけている。つまり、「授業改善アクションプラン」の最も重要な意義は、現在実施している授業を点検評価するという点よりも、教員の教育力を向上させることに置かれている。今年度の取り組みの中で、多くの教員が、自分の授業の分析、授業改善プランの作成、そのプランを実際の授業で実施、授業改善効果の検証、検証結果の分析、次年度授業の改善プランを作成、といった一連の経験をしたことは、各教員の教育力の向上に役立ったと思われる。今後、このような取り組みを積み重ねることにより、長期的には、各教員の教育力向上に大きな効果がもたらされると期待される。

以下、今年度「授業改善アクションプラン」の成果について、ごく短期的な視点から、「今年度授業の改善が行われたか」「教員が実施したアクションプランは今年度授業改善に効果があったか」の2点について、学生アンケート評価の結果に基づいて、簡単に考察を行うことにする（なお、以下の考察のデータは「最終アクションプラン（次年度に向けたアクションプラン）」作成まで行った111授業のもの）。

「今年度授業の改善」について、全授業単純平均値の5週目と14週目との比較を行ったのが図3-1-1、図3-1-2である。ほぼ全ての質問項目で、評価平均値が上昇している。とくに「質問対応」「学生予復習」「学生知識能力」「学生満足度」など、達成が比較的難しいと思われる項目および総括的な項目で学生からの評価が大きく上昇していることが注目される。ただし、「学生意欲」に関して評価が落ちている点に関しては検討する必要がある。また、授業評価値が上昇・下降した授業数の比率を示したのが図3-1-3である。このデータでも、ほぼ全ての質問項目で、評価値が上昇した授業の比率が下降した授業の比率を上回っている。以上より、全体としては、「授業改善アクションプラン」を実施した授業において、5週目から14週目にかけて「今年度授業の改善」がなされたと評価できる。

図3-1-1 評価平均値の変化（全授業の単純平均）①

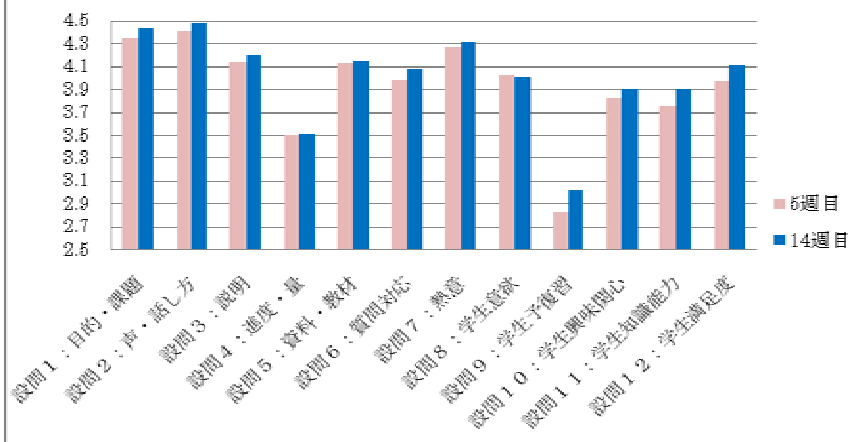


図3-1-2 評価平均値の変化（全授業の単純平均）②

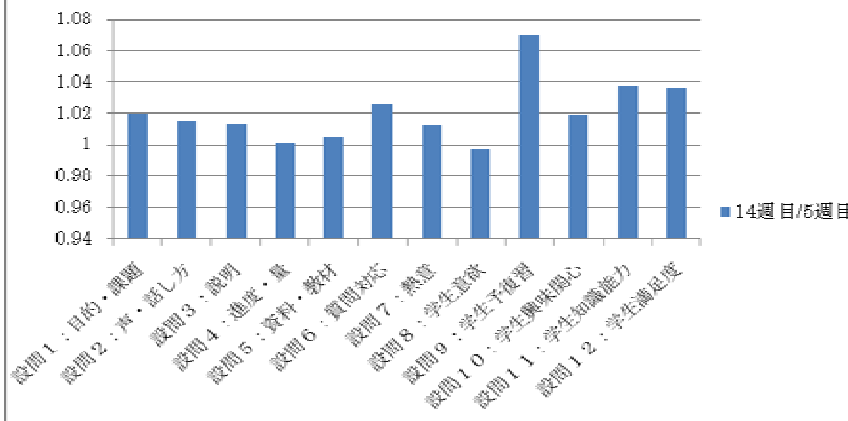
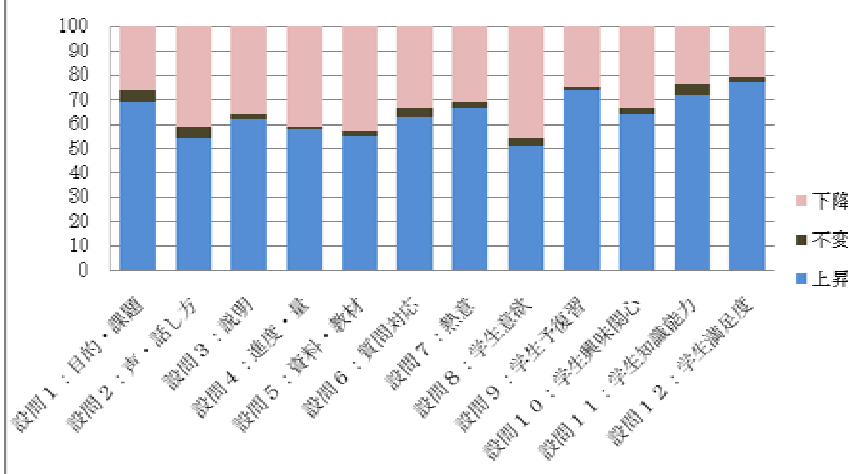
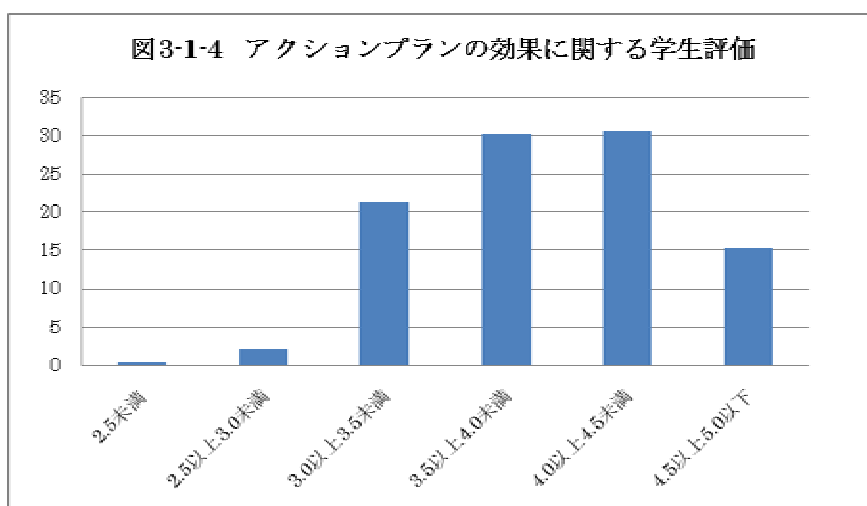


図3-1-3 評価平均の変化（上昇・下降した授業の割合）



次に「教員が実施したアクションプランの今年度の授業改善に対する効果」について、アクションプランの効果に関する評価値の分布を示したのが図 3-1-4 である。アクションプランの効果に関する評価値の単純平均は 3.90 であり、分布は 4.00 前後をピークに緩やかなカーブを描いている。アクションプランの授業改善効果は、学生からある程度の評価を得ているが、しかし必ずしも全てのアクションプランが高い評価を得ているというわけではないようである。この点に関して、実際には、多くの教員が 2～3 個のアクションプランを作成しており、そのような場合、複数のアクションプランの重要性に差があり（場合によっては、あまり実施しなかった、あるいは実施できなかったアクションプランもあるようであり）、それを反映して各教員のアクションプランの効果に対する評価も「アクションプラン 4.5、アクションプラン 4.0、アクションプラン 3.2」などと大きな差がついているケースが多くみられた。このような事情を考慮すると、少なくとも各教員が力を入れて実施したアクションプランは、まずまず高い効果があったと評価されていると考えてよいと思われる。



### 3. 各分科会の自己点検評価活動

各分科会独自の自己点検評価活動は、それぞれの分野の授業特性や分科会の問題意識に応じて「学期末アンケート」「5・14 週目アンケート」「分科会独自アンケート」などの形で実施された。以下、今年度の取り組みを、ごく簡単にまとめておく。詳細については、各分科会報告の項目をご覧ください。

大学基礎論分科会では、「学生自己分析シート(1 週目・15 週目)」「授業評価アンケート」「5・14 週目アンケート」を実施した。「学生自己分析シート」では、1 週目ではコミュニケーション能力や社会性に関する数値が低調だったが、15 週目ではこれらの数値とくにコミュニケーション能力に関する数値が大きく改善されており、また「授業評価アンケート」でも「双方向コミュニケーション能力の重要性を認識する」ことができたかどうかに関する



る質問で高い数値が示されている。そこから、グループワークを通して双方向コミュニケーション能力の向上を図るという大学基礎論の授業目標にそった授業が展開され、一定の成果が上がっていると指摘されている。

学問基礎論分科会では、各学部での実施形態を整理し、その後に人文学部と教育学部で実施された「5・14 週目アンケート」に書き込まれた要望事項を示すとともに、理学部で実施された「学部独自アンケート」の分析を行っている。

人文分野分科会では、「学期末アンケート」と「5・14 週目アンケート」結果の分析を行っている。「5・14 週目アンケート」に関しては、5 週目で各設問の平均点が低かった授業と高かった授業の 14 週目平均点を比較した考察、また質問項目別の考察などが行われている。

社会分野分科会では、「5・14 週目アンケート」結果に基づき、良い結果をもたらした授業の取り組みについて考察を行っている。例えば、授業改善アクションプランの実施とは学生ニーズと教員の教育意図とをすり合わせることであり、教員が学生を「引き上げる」ための具体的な方法を検討した場合に、良い結果が生ずると考察されている。そして、その具体的な方法に関して、予復習・授業の進め方・90 分の授業構成・少人数講義の方法などについて興味深い考察が行われている。

生命・医療分科会では、スポーツ科学講義に関しては、平均値も自由記述もおおむね高い評価が得られていると考察されている。健康に関しては、4 つのクラスでほぼ同様の結果が示され、それは例年通りの傾向だと考察されている。また、健康はオムニバス形式で行われているため、現在の形の授業アンケートでは授業改善に結びつけるのが難しいという問題があることが指摘されている。

自然分野分科会では、「5・14 週目アンケート」結果について、14 週目にはおおむね評点が向上していること、とくに「説明」「学生興味関心」「学生満足度」について評点が顕著に向上していることが指摘され、そこから、授業担当教員によるアクションプランの作成と実施が有効に働いていると考察されている。

外国語分科会では、「5・14 週目アンケート」結果について、全体的には良好な評点が出ており、教員の努力と学生の意欲が感じられると考察されている。ただし、進度と予復習には難しい問題があることも指摘されている。また、教員が作成したアクションプランには、教員の生の声が表れているとして、幾つかの記述が例示されている。

キャリア形成支援科目分科会では、今年度、キャリア系科目と教職科目との連携をはかりつつ、FDやカリキュラム編成等に力を入れ、新たなキャリア形成教育プログラムの開発・試行を目指す活動を行ったが、自己点評価に関しては特筆すべき活動は無かったとされている。

スポーツ・健康分科会では、スポーツ科学講義に関しては、学生満足度が全ての講義で4を超えており、全体として大きな問題なく実施されていると考察されている。スポーツ科学実技に関しても、学生満足度が4を超えて総じて高く評価されていると考察されている。さらに、平成19～21年度の3年間のデータを比較し、3年間でほぼ同様の傾向が示されていること、「教員の熱意」「学生の意欲」とも高い評価を維持しながら推移していることが指摘され、特別な支援や対策を講じる必要はないと考察されている。

日本語・日本事情分科会では、「5・14 週目アンケート」結果について、学生満足度が非

常に高く自由記述でも肯定的に評価されていること、全体として授業内容・授業方法・授業の難易度などについて学生がおおむね満足していること、ただし一部で受講生のレベルの差が大きいことに対する教員側の扱いに課題があることなどが考察されている。

## 資料3-1-1

### 共通教育授業改善「5週目アンケート」「14週目アンケート」質問項目

どちらかと言うといいえ  
 どちらとも言えない  
 どちらかと言うとはい  
 はい

1. 毎回の授業の目的や課題は、明確にされていますか
2. 教員の声の大きさや話し方は、聞き取りやすいですか
3. 教員の授業内容の説明は、分かりやすいですか
4. 授業の進み方や内容量は、あなたにとって適切ですか ( 速すぎる・多すぎる、 適当、 遅すぎる・少なすぎる )
5. 配布資料・視聴覚教材・テキストなどは適切に利用されていますか
6. 教員は、受講生が質問や意見を述べる機会をつくり、それらに答えていますか
7. 授業に対する教員の熱意を感じますか
8. あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか
9. あなたは、この授業の予習や復習をしていますか
10. あなたは、この授業によって、この分野への学問的興味・関心が高まっていますか
11. あなたは、この授業で身につけることを期待した知識や能力を得ていますか
12. 全体としてこの授業にあなたは満足していますか
13. ( 授業担当教員による個別質問設定可能 )
14. ( 同上 )
15. ( 同上 )
16. ( 同上 )
17. ( 同上 )
18. ( 同上 )
19. ( 同上 )
20. ( 同上 )
21. ( 同上 )

質問1～12は「5週目」「14週目」共通

質問13以降に授業教員が個別に質問を設定することができる

「14週目」には、各授業担当教員が作成した「アクションプラン」に従って

「アクションプラン」は授業改善に効果がありましたか」の質問が追加される

裏面に「自由記述欄」が設けられている

## 資料3-1-2

### 1学期 実施授業数

	5週目 アンケート	中間 アクション プラン	14週目 アンケート	最終 アクション プラン
大学基礎論	8	6	7	5
学問基礎論	0	0	0	0
課題探求実践セミナー	2	1	2	1
情報	16	15	15	14
人文	8	7	7	6
社会	8	7	7	6
生命・医療・スポーツ・健康	0	0	0	0
自然	22	19	19	19
外国語	7	6	6	5
キャリア形成支援	5	4	2	2
日本語・日本事情	1	1	1	1
合計	77	66	66	59

### 2学期 実施授業数

	5週目 アンケート	中間 アクション プラン	14週目 アンケート	最終 アクション プラン
大学基礎論	0	0	0	0
学問基礎論	29	24	29	27
課題探求実践セミナー	1	0	1	0
情報	0	0	0	0
人文	8	7	8	7
社会	6	5	6	5
生命・医療・スポーツ・健康	7	5	7	6
自然	4	4	4	4
外国語	3	2	3	2
キャリア形成支援	0	0	0	0
日本語・日本事情	1	1	1	1
合計	59	48	59	52

### 年間 実施授業数

	5週目 アンケート	中間 アクション プラン	14週目 アンケート	最終 アクション プラン
大学基礎論	8	6	7	5
学問基礎論	29	24	29	27
課題探求実践セミナー	3	1	3	1
情報	16	15	15	14
人文	16	14	15	13
社会	14	12	13	11
生命・医療・スポーツ・健康	7	5	7	6
自然	26	23	23	23
外国語	10	8	9	7
キャリア形成支援	5	4	2	2
日本語・日本事情	2	2	2	2
合計	136	114	125	111

## 資料3-1-3

### 1学期 アンケート回答人数

	5週目 実施授業 受講生数	5週目 回答者数	14週目 実施授業 受講生数	14週目 回答者数
大学基礎論	430	422	408	400
学問基礎論	0	0	0	0
課題探求実践セミナー	147	135	147	146
情報	607	562	571	526
人文	599	458	569	439
社会	683	420	653	393
生命・医療・スポーツ・健康	0	0	0	0
自然	1331	1047	1137	858
外国語	325	294	265	231
キャリア形成支援	579	418	240	95
日本語・日本事情	9	21	9	22
合計	4710	3777	3999	3110

### 2学期 アンケート回答人数

	5週目 実施授業 受講生数	5週目 回答者数	14週目 実施授業 受講生数	14週目 回答者数
大学基礎論	0	0	0	0
学問基礎論	458	405	458	406
課題探求実践セミナー	57	53	57	55
情報	0	0	0	0
人文	583	438	583	430
社会	332	242	332	235
生命・医療・スポーツ・健康	475	398	475	389
自然	202	153	202	138
外国語	130	101	130	105
キャリア形成支援	0	0	0	0
日本語・日本事情	17	16	17	15
合計	2254	1806	2254	1773

### 年間 アンケート回答人数

	5週目 実施授業 受講生数	5週目 回答者数	14週目 実施授業 受講生数	14週目 回答者数
大学基礎論	430	422	408	400
学問基礎論	458	405	458	406
課題探求実践セミナー	204	188	204	201
情報	607	562	571	526
人文	1182	896	1152	869
社会	1015	662	985	628
生命・医療・スポーツ・健康	475	398	475	389
自然	1533	1200	1339	996
外国語	455	395	395	336
キャリア形成支援	579	418	240	95
日本語・日本事情	26	37	26	37
合計	6964	5583	6253	4883

## 資料3-1-4

### 5週目と14週目の平均値(全授業の単純平均)

	5週目	14週目	14週目/5週目
設問1:目的・課題	4.344	4.431	1.020
設問2:声・話し方	4.415	4.482	1.015
設問3:説明	4.142	4.196	1.013
設問4:進度・量	3.507	3.512	1.002
設問5:資料・教材	4.134	4.153	1.005
設問6:質問対応	3.982	4.086	1.026
設問7:熱意	4.264	4.318	1.013
設問8:学生意欲	4.024	4.009	0.996
設問9:学生予復習	2.827	3.026	1.070
設問10:学生興味関心	3.831	3.905	1.019
設問11:学生知識能力	3.761	3.903	1.038
設問12:学生満足度	3.971	4.115	1.036

データは最終APまで行った111授業

### 5週目と14週目の平均値の上昇・下降(授業数比率)

	上昇	不変	下降	合計
設問1:目的・課題	63.3	4.6	32.1	100.0
設問2:声・話し方	49.5	4.6	45.9	100.0
設問3:説明	56.9	1.8	41.3	100.0
設問4:進度・量	53.7	0.9	45.4	100.0
設問5:資料・教材	50.5	1.8	47.7	100.0
設問6:質問対応	57.8	3.7	38.5	100.0
設問7:熱意	61.5	1.8	36.7	100.0
設問8:学生意欲	46.8	2.8	50.5	100.0
設問9:学生予復習	67.9	0.9	31.2	100.0
設問10:学生興味関心	59.3	2.8	38.0	100.0
設問11:学生知識能力	66.7	3.7	29.6	100.0
設問12:学生満足度	70.6	1.8	27.5	100.0

データは最終APまで行った111授業

### 授業改善アクションプランの効果に対する学生評価

	回答数	回答比率
2.5未満	1	0.4
2.5以上3.0未満	5	2.1
3.0以上3.5未満	50	21.3
3.5以上4.0未満	71	30.2
4.0以上4.5未満	72	30.6
4.5以上5.0以下	36	15.3
合計	235	100.0

データは最終APまで行った111授業

## 2009 年度 授業改善アクションプラン(記入例)

### (1) 授業情報

授業名：持続可能な経済発展と環境問題

授業担当教員：高知太郎

受講生数：16名

授業方法：講義とグループワーク

### (2) 「5 週目アンケート」の結果に関する分析・感想、学生への要望など

1. 授業の進度や量についてはおおむね適切であるとされている。
2. 声の大きさや授業中の指示などについて適切であるとされているが、記述式回答に「今何をすべきなのかということを確認に言ってほしい。後々から変わったりするのでやりにくい」という内容のものが2件あり反省すべきと考える。
3. グループワークを採用しているため、受講者が積極的に授業に参加していると認識していることについては安心したが、学習の目的や知識・スキルの獲得について、担当者としては若干不安である。
4. 授業が難しいと記述回答した学生が数名見受けられたが、そのような学生は授業の予復習が十分でないと思われる。受講生には時間外学習をして欲しいし、そのための指導も行いたいと考えている。

.....(2)~(5)の全てについて、添付の「用紙」では3つの記入項目が設定されていますが、分析やアクションプラン作成の項目数はいくつでも結構です。

### (3) アクションプラン

1. グループワークの課題については、事前によく検討し、明確な指示を出す。
2. 学習の目的をもう一度明確にし、各回の授業テーマがどのように関連しているか説明する。
3. グループワークのための下調べを時間外学習の課題として課す。

.....アクションプランは、「14 週目アンケート」の質問項目になります(それぞれの先生が作成して下さったアクションプランの各項目が、授業改善に有効だったかを問う質問項目が設定されます。例えば「アクションプラン『グループワークの課題については、事前によく検討し、明確な指示を出す』は授業改善に有効でしたか」など)。アクションプランは、簡潔で分かりやすい文章でお書き下さい。

なお受講生に対しては、口頭あるいは必要があれば追加文章で、できるだけ丁寧にご説明下さるようお願い致します。

### (4) 「14 週目アンケート(アクションプラン検証アンケート)」の結果に関する分析・感想

(アクションプランの項目に連動して記述して下さい)

1. 授業の段階でグループワークの内容を十分に検討することで、明確な指示ができるようになった。記述式回答でもこれをよく理解してくれていた。
2. ほぼ毎回、授業のテーマと学習の目的の関連を最初に掲げたことで、ある程度の受講生の理解を得ることができた。
3. 下調べをしていくことによってグループワークが活性化したが、受講生個人に対して、時間外

学習の結果を検証することはできなかった。グループワークの授業の難しさでもある。  
..... (4)と(5)は、2学期末に「14週目アンケート」の結果をご覧の上でお書き下さい  
(来年2月に改めてお願いの連絡を致します)。現時点では空白で結構です。

#### (5) 次年度への課題

1. 講義形式の授業にグループワークを導入して知識やスキルの獲得をめざしたが、事前の授業設計を十分にしておかなければ効果がでないことがわかった。もう一度授業設計を考え直すべきである。
2. 時間外学習を促す方法について再考しなければならない。事前準備確認テストも一つの方法であるが、時間的余裕もないので、小レポートの数を増やすことで対応したい。

..... (4)と(5)は、2学期末に「14週目アンケート」の結果をご覧の上でお書き下さい  
(来年2月に改めてお願いの連絡を致します)。現時点では空白で結構です。

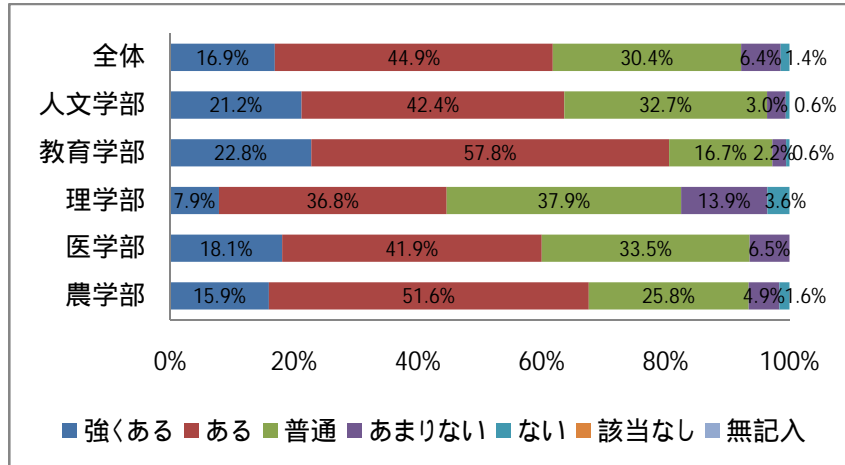


# 1. 意欲

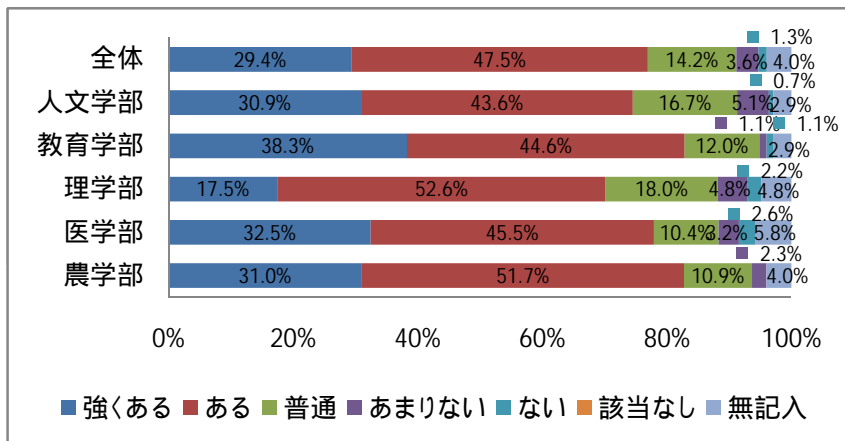
## 省察力

1. 具体的な出来事にぶつかって、これまでの自分の思考や態度を振り返り、自分をさらに高めていこうとする意欲や決意がありますか。

### 第1週

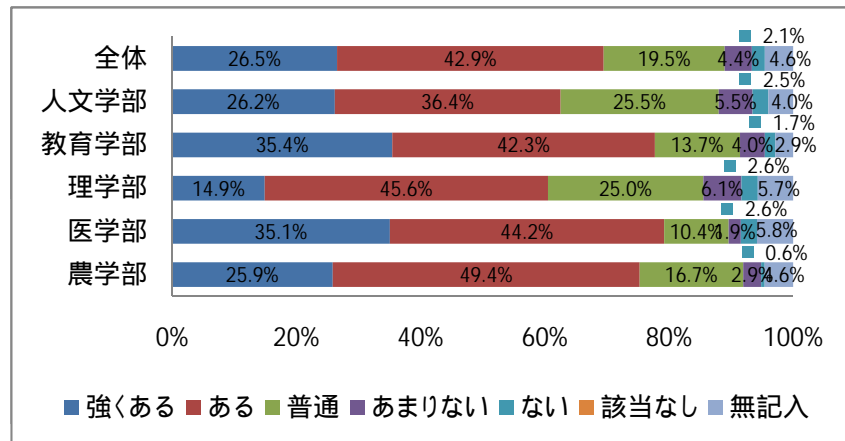


### 第15週



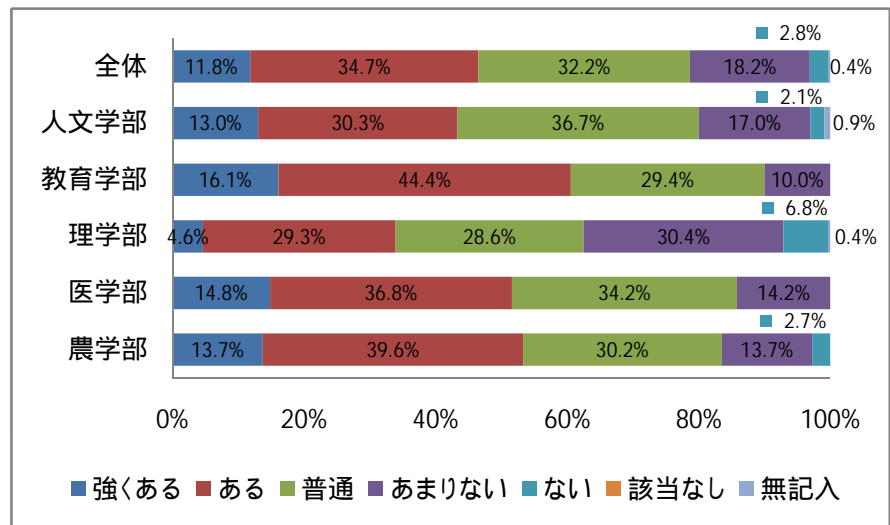
2. この授業のなかで、自分を高めていこうとする意欲や決意を意識しましたか。

### 第15週

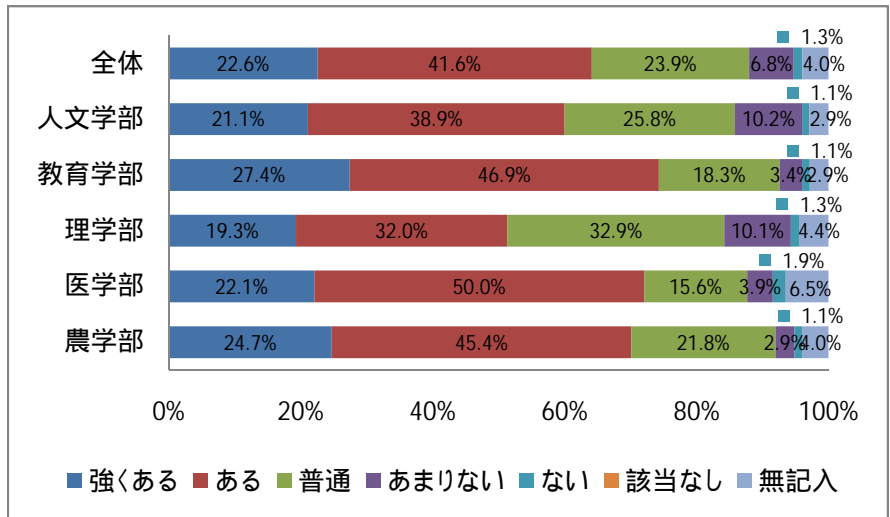


3. 失敗や困難に対する恐れではなく、成功に対する期待を持って、常にポジティブに行動し続けようとする意欲がありますか。

第1週

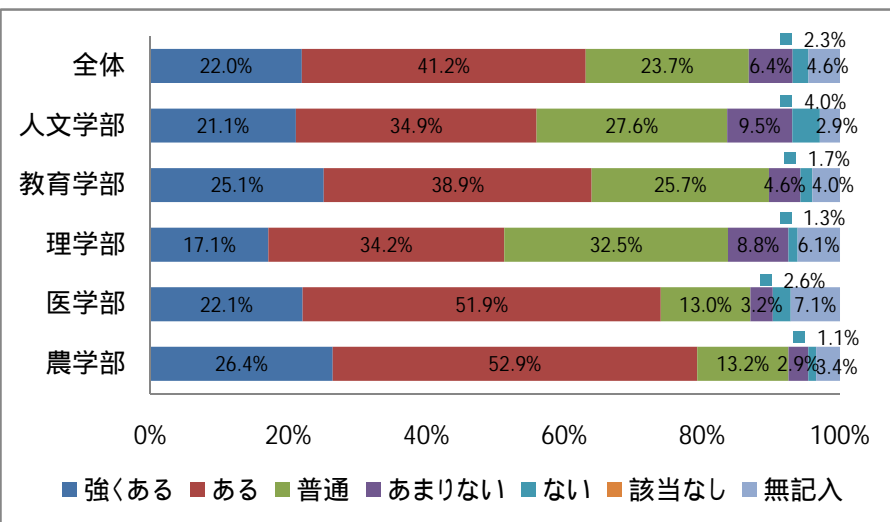


第15週



4. この授業のなかで、前向きに行動する意欲を意識しましたか。

第15週

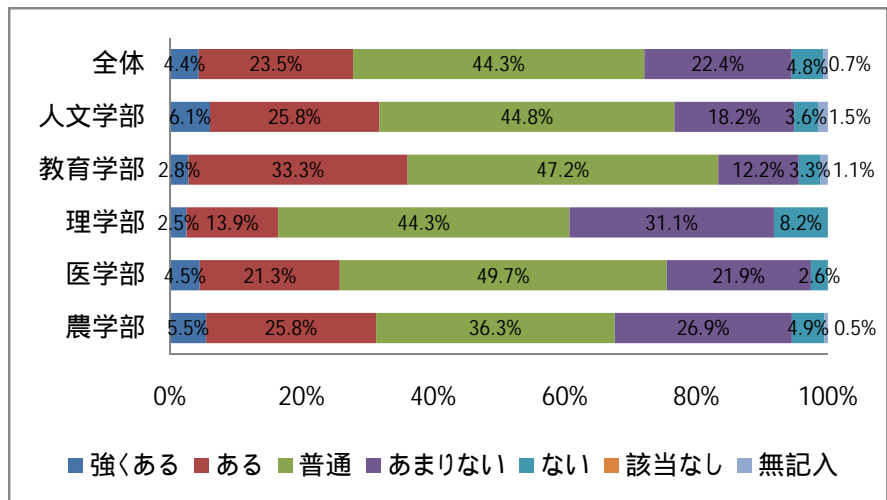


## 2. コミュニケーション能力

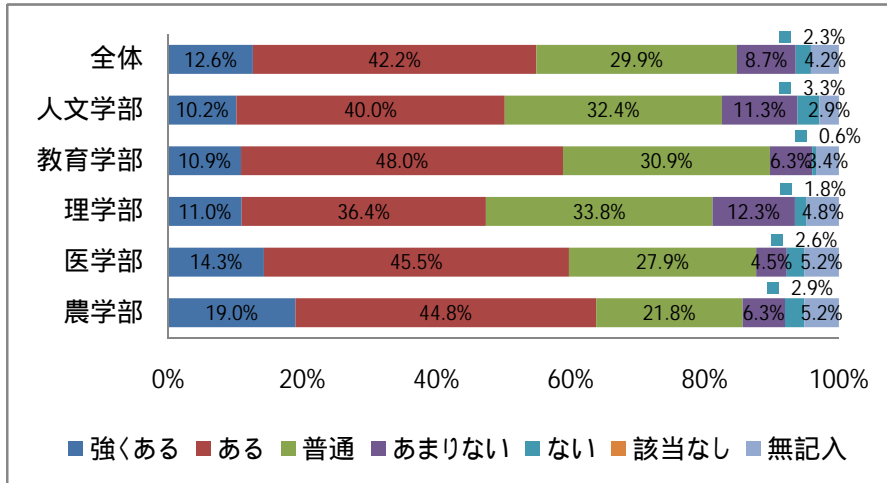
自分の考えを伝える

5. グループや仲間たちと何かをしようとする時、自分の考え方や意見を相手に理解してもらえるように話ができますか。

第1週

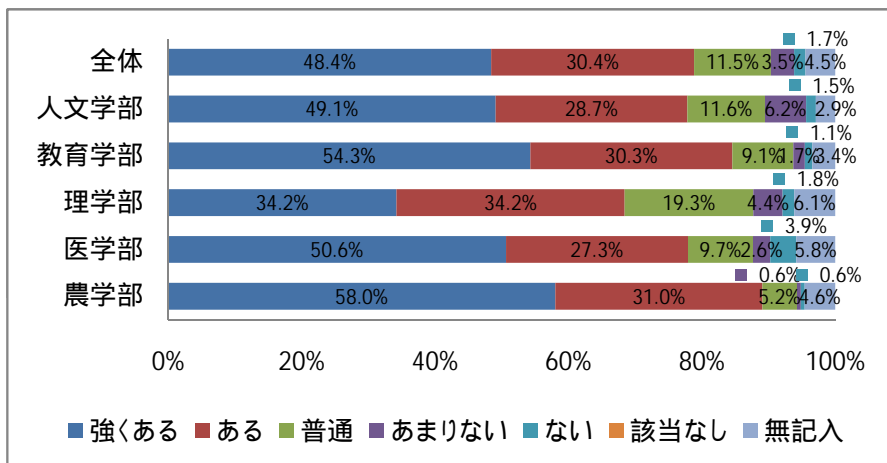


第15週



6. この授業のなかで、自分の考えを相手に伝える力の修得が必要であると気づきましたか。

第15週

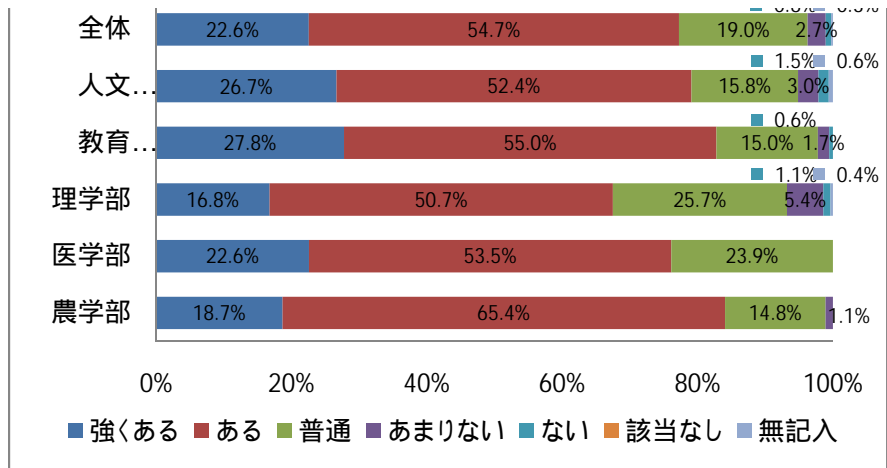


他人の考えを理解する

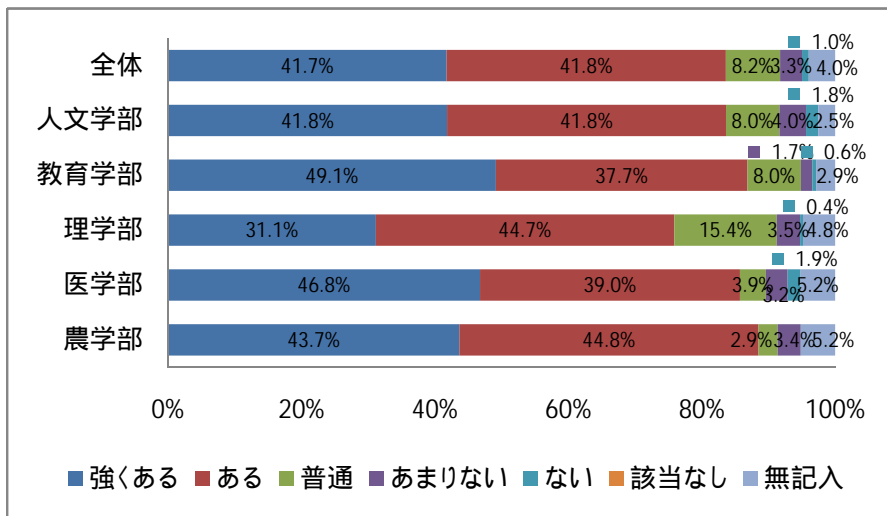
7. グループや仲間たちと何かをしようとする時、他人の考え方や意見を理解しようと努力していますか。

第1週



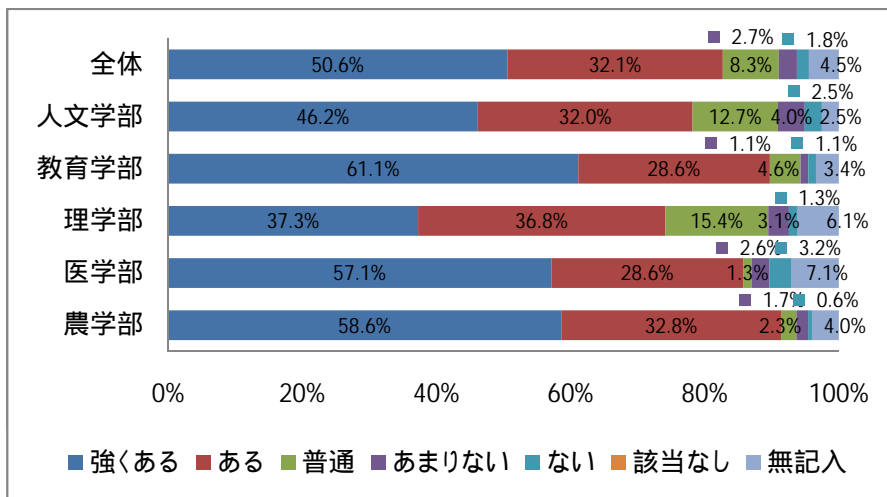


第15週



8. この授業のなかで、相手の考え方や意見を理解する姿勢が大切であると気づきましたか。

第15週

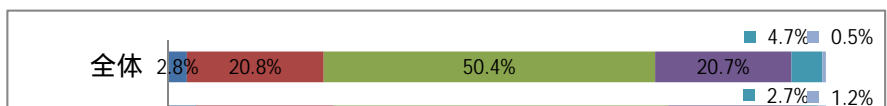


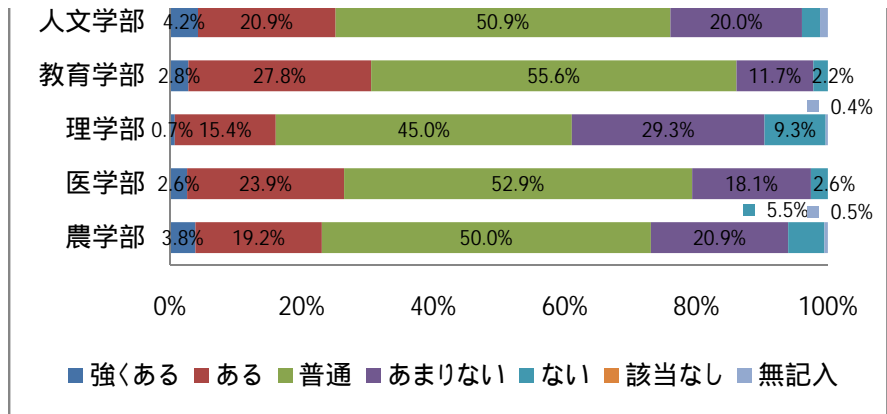
### 3. 社会性

組織の中での自分の存在

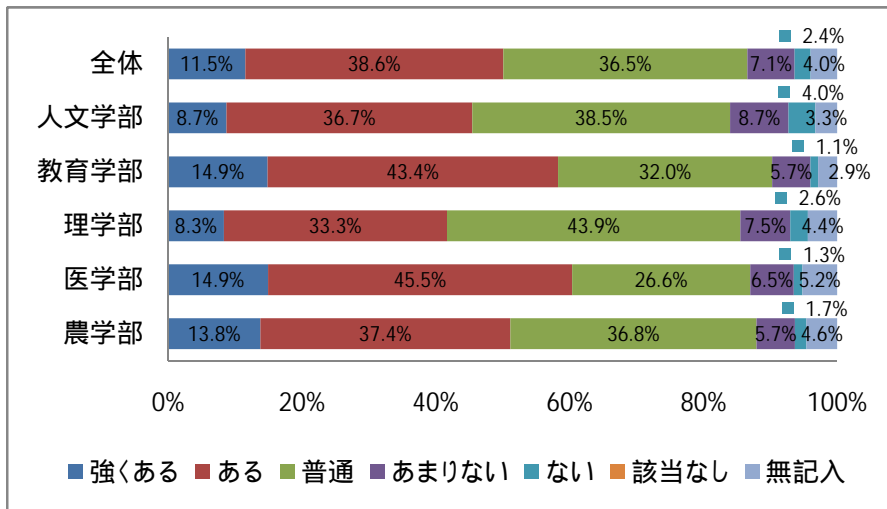
9. 組織・チームの中で自分の素養や能力を生かす場を見つけることができる。

第1週



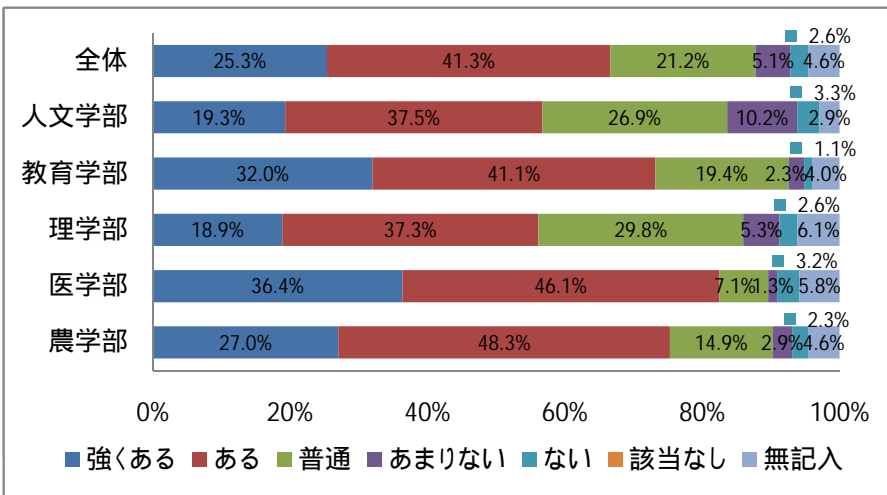


第15週



10. この授業のなかで、組織の一員としてのあり方を考える機会となりましたか。

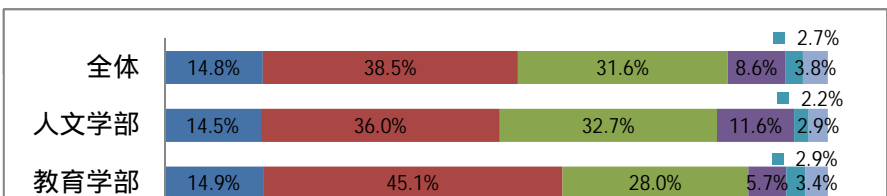
第15週

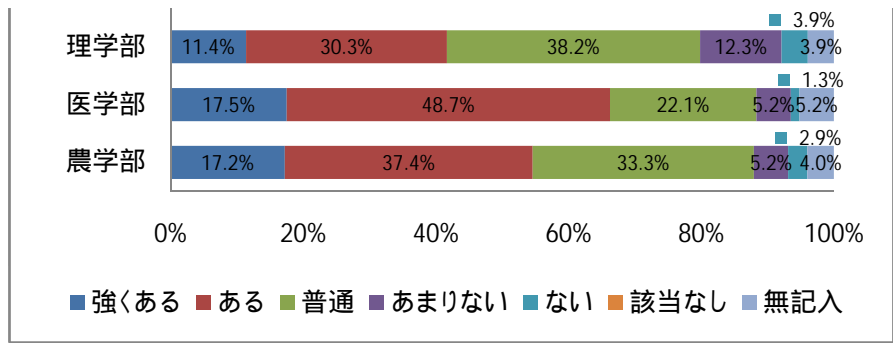


社会との関わり

11. 今、自分が身に付けようとしている能力が、今後の社会の中でどのように役立つものなのかを意識して様々なことに取り組んでいる。

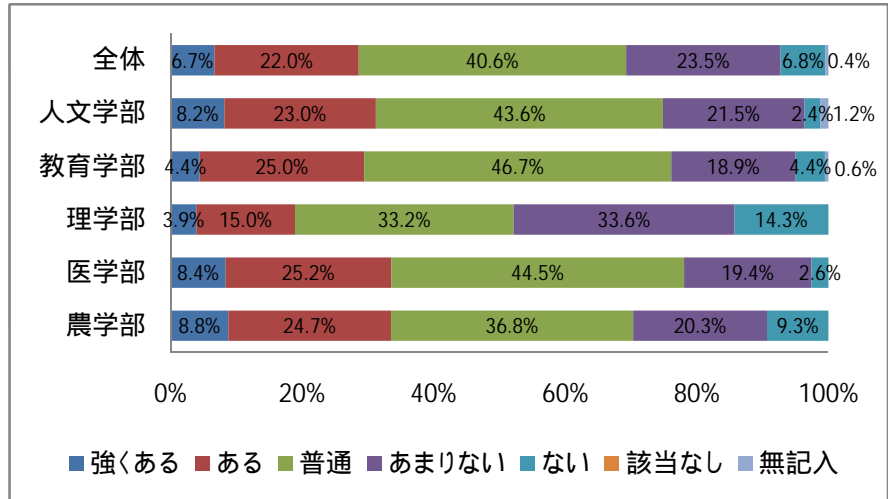
第15週



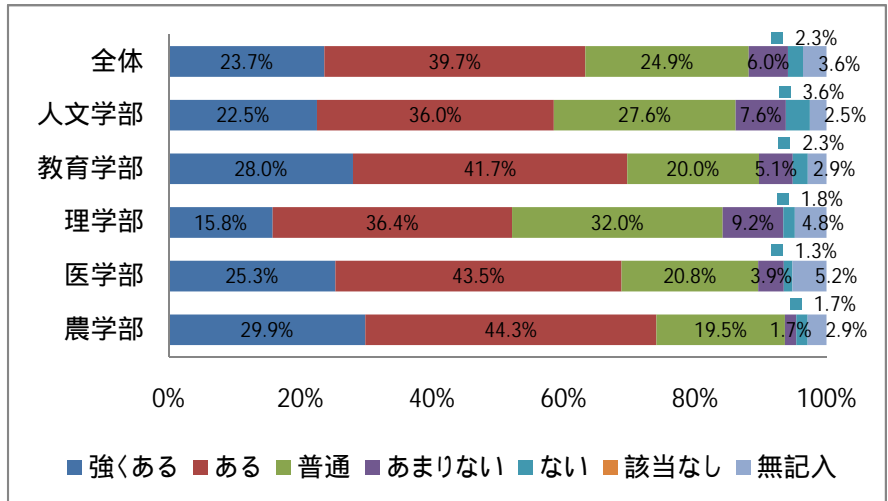


12. この授業のなかで、社会と自分について考える機会となりましたか。

第1週



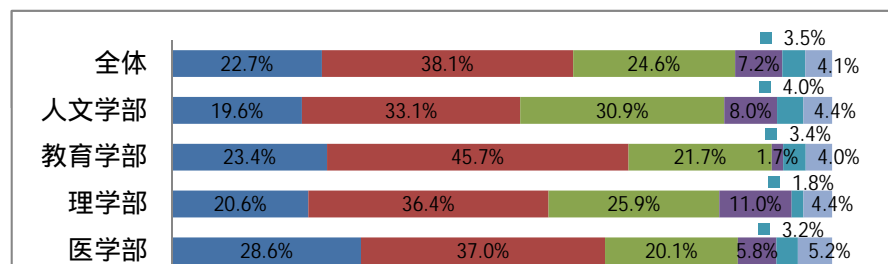
第15週

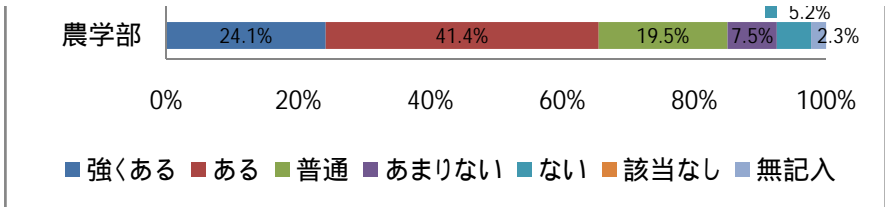


4. 大学生生活

充実感 13. 大学生生活に充実感がありますか

第15週

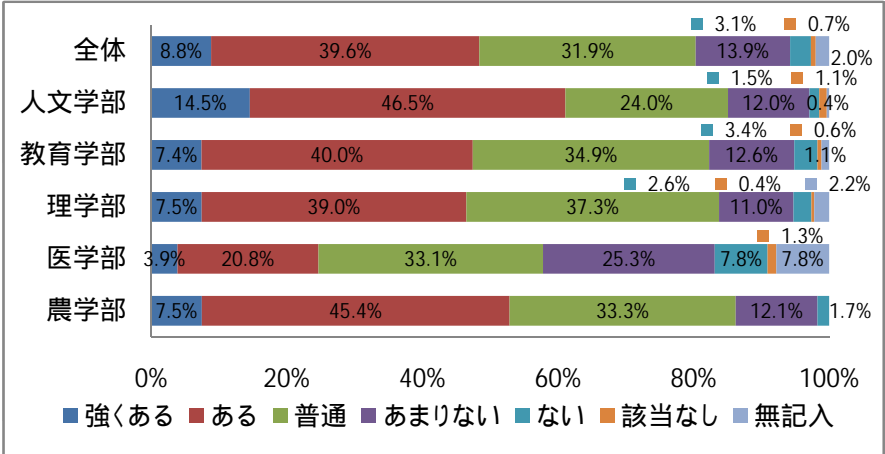




充実感に影響を与えているもの

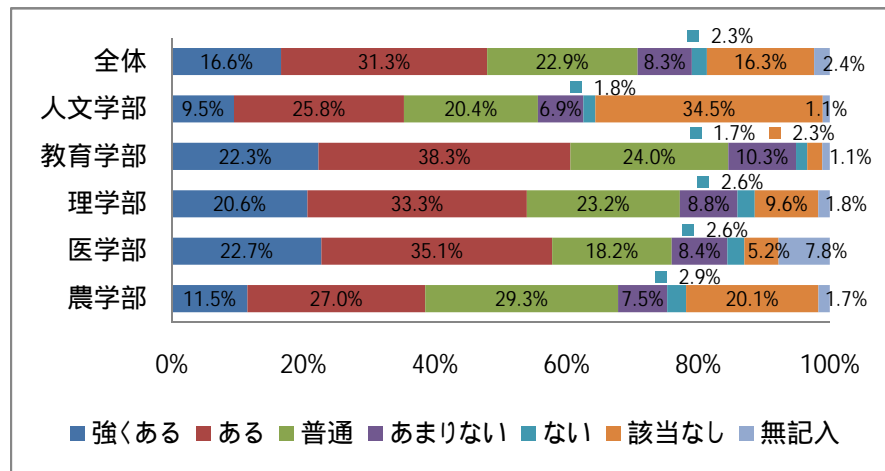
14. 共通教育の授業

第15週



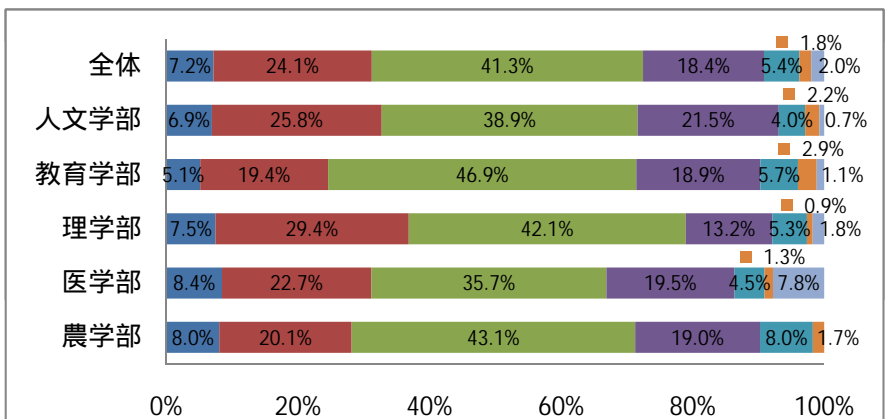
15. 専門教育の授業

第15週



16. 自学自習

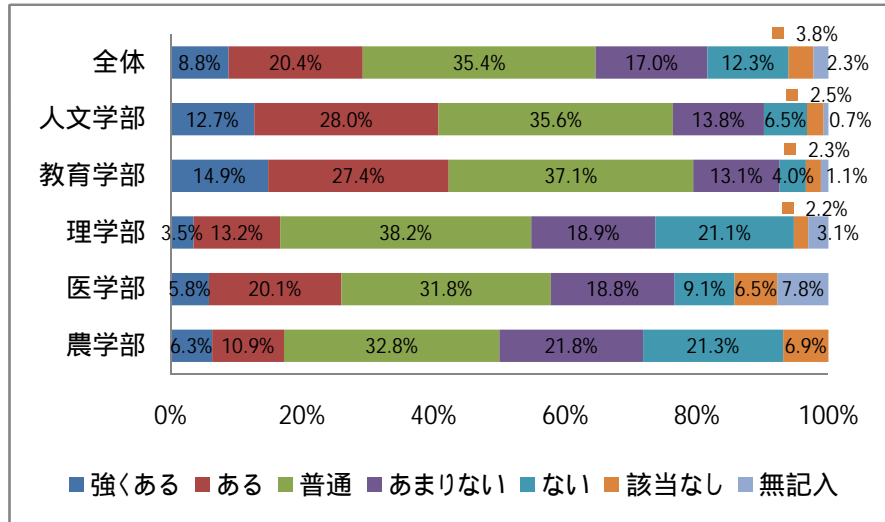
第15週



■ 強くある ■ ある ■ 普通 ■ あまりない ■ ない ■ 該当なし ■ 無記入

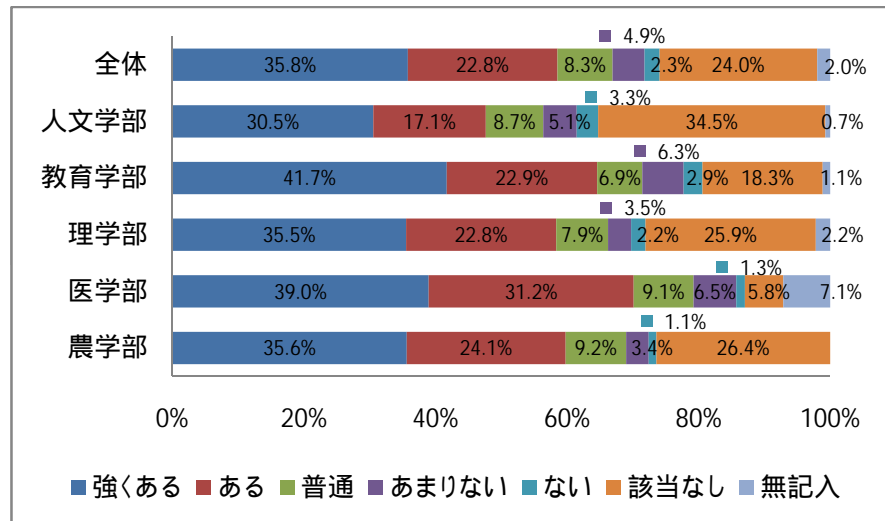
### 17. 教員(アドバイザー教員など)との触れ合い

第15週



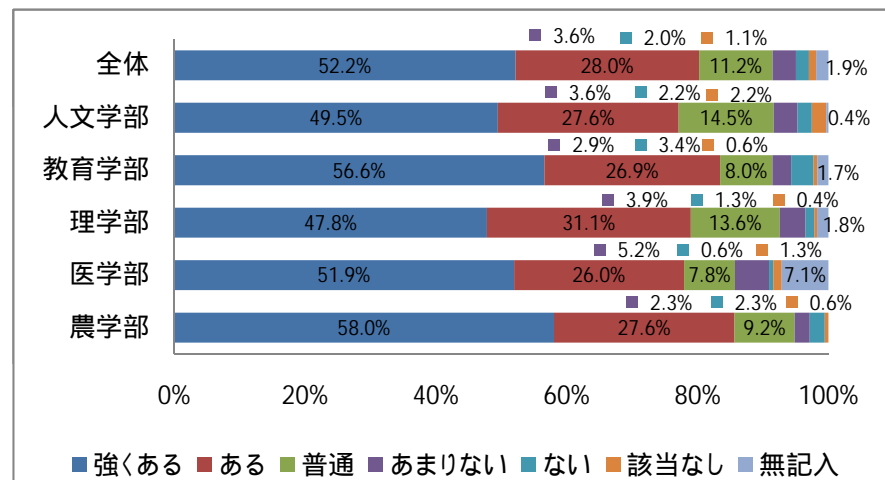
### 18. クラブ活動・サークル活動

第15週



### 19. 友人や仲間との触れ合い

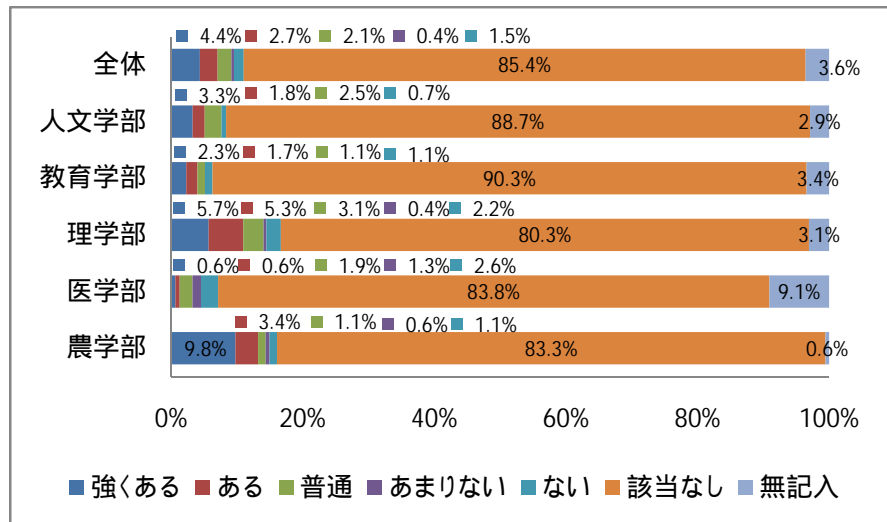
第15週





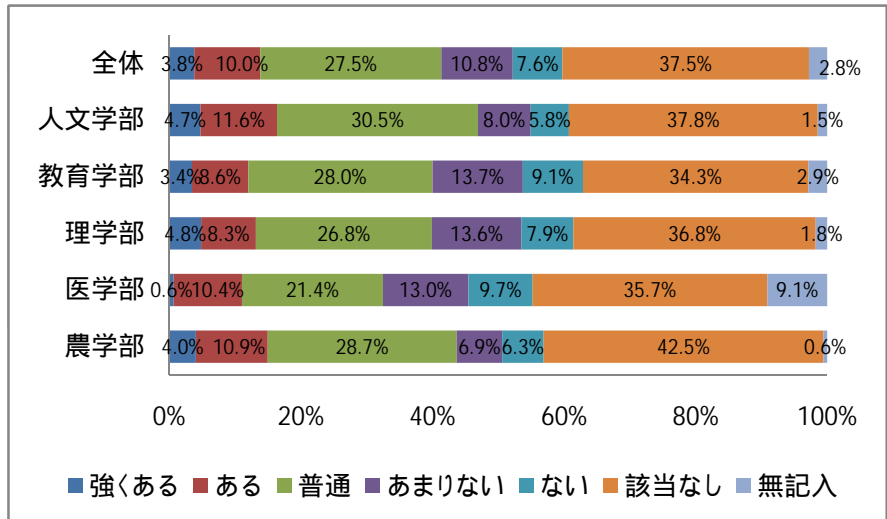
## 20. 寮生活

第15週



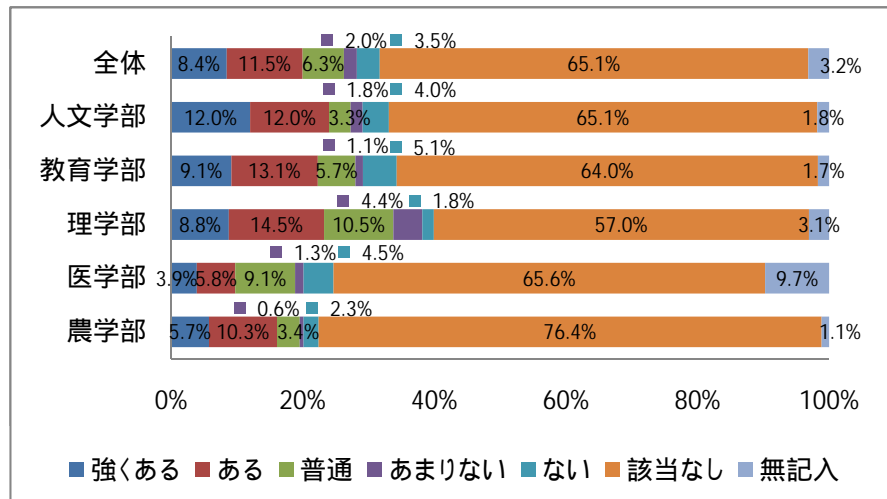
## 21. 大学の支援(学生支援GP、S・O・S活動など)

第15週



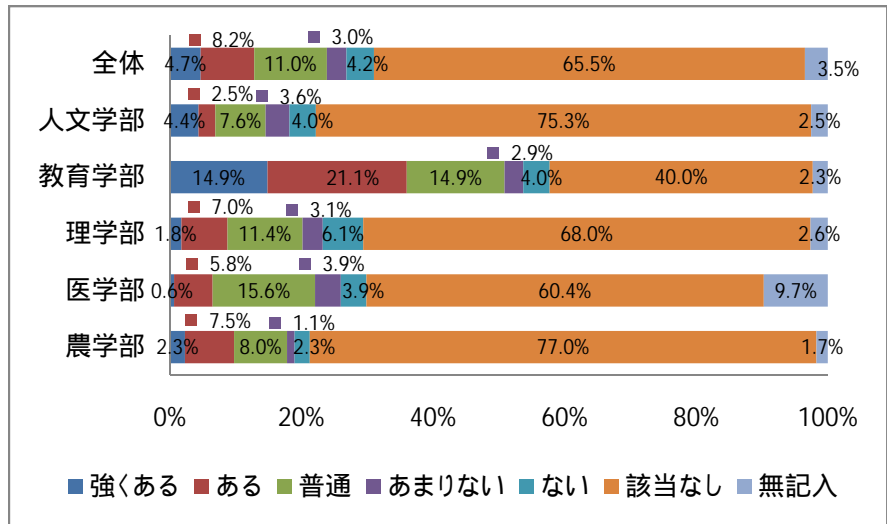
## 22. アルバイト

第15週



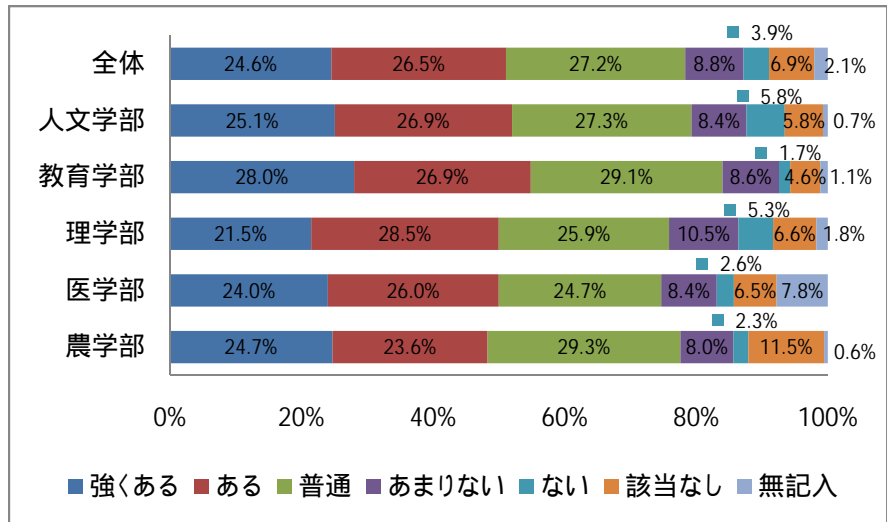
## 23. ボランティア活動

第15週



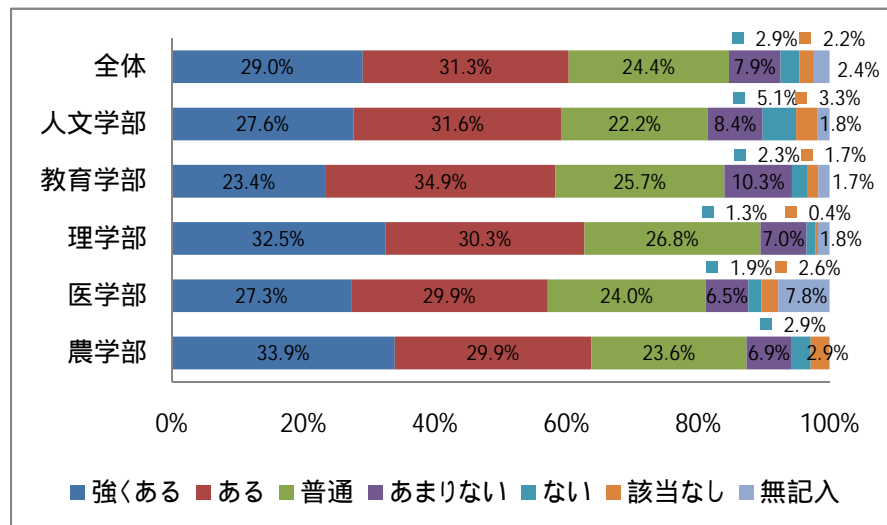
24. 家族

第15週



25. 趣味

第15週



### 3 - 2 大学基礎論分科会

大学基礎論分科会副分科会長 田鎖数馬(人文学部)

本年度の大学基礎論分科会自己点検活動として、主に以下の三つのことを行った。すなわち、第一週目と第十五週目に学生に自己分析シートを記入させ、その結果を集計したこと、学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を集計したこと、五週目アンケート、十四週目アンケートを実施し、その結果を集計したことである。自己分析シート及び、授業評価アンケートは、文学部、教育学部、理学部、農学部、医学部の全学部において、恙なく行われた。また、五週目、十四週目アンケートは、人文学部から一クラス、教育学部から五クラス、医学部から一クラスの授業で行われた。

学生の自己分析シートについてであるが、第一週目の数値を見ると、全学部の学生の傾向として、コミュニケーション能力や社会性に関する数値が低調であった。他者とどう関わっていくのか、社会の中で自己をどう生かしていくのかという点に不安を抱える学生が多かったということが分かる。それが、第十五週目の数値を見ると、全学部において、これらの数値に改善が見られた。とりわけ、コミュニケーション能力に関する数値は1点以上改善している。これは、グループワークを通して、基本的双方向的コミュニケーション能力の向上を図るという、この授業における全学的な教育目標や意図に沿った授業が展開され、一定の成果があったということを示しているだろう。この点は次年度以降も継続される必要がある。その他、第十五週目の数値を見ると、教員（アドバイザー教員）との触れ合いや、大学の支援に物足りなさを感じている学生が多いということが分かる。これらの項目は、全体の数値としては2点台であった。一年生のうちは、教員との接触は限られたものになるということを割り引いても、この数値は低調であり、教員や大学からの一方的な情報発信に終始するのではなく、もう少し、相互に交流できる場を設けるなどの対策が必要であるのかも知れない。

学生による授業評価アンケートについては、「相手の話をよく聞き、自分の考えを分かり易く伝えるという双方向コミュニケーション能力の重要性を認識する」ことができたか、という項目の数値が、全学部を通して高かった。これも、上記の如く、双方向的なコミュニケーション能力の獲得を目指した授業が展開されたことの、一つの成果であると考えられる。一方、「高知における高知大学の存在意義について考える」ことができたか、という項目の数値が軒並み低かった。この項目が、大学基礎論の教育理念の柱の一つであったことを考えると、この点は次年度以降の大きな課題であるといえる。そもそも、「高知における高知大学の存在意義について考える」ということを、何故教えなければならないのか、また、どのようにして教えるのが効果的であるのかということは、教員の間でも理解されていないと思われる。各担当教員に、これらの点を周知徹底させることが求められるのではないかと。

5週目、14週目アンケートについては、殆どの質問項目に対する数値は、概ね高かった。ただし、この授業の予復習を行っているかという項目については、その数値が、5週目、14週目ともに極めて低かった。5週目と14週目の間で数値に改善が見られることもなかった。これは、この授業の性質がもともと、予復習を要求する類のものではないということによ

るだろう。ただ、試験もなく、出席するだけで単位が出るということに、疑問を抱いている学生もいるようで、時に予復習を必要とするような専門的な内容に踏み込み、それについて小テストをするなどの試みがなされてもよいのかも知れない。

### 3 - 4 学問基礎論分科会

学問基礎論分科会副分科会長 村田文絵 (理学部)

#### 1. 2009年度の各学部における実施形態

##### (1) 農学部

		内容	担当	備考
1	10月3日	農学入門1	学部長	アドミッションポリシーに基づいて・希望調査
2	10月10日	農学入門2	暖地農学・海洋 コース主任	アドミッションポリシーに基づいて
3	10月17日	農学入門3	食料・生命 コース主任	アドミッションポリシーに基づいて
4	10月24日	農学入門4	流域・自然 コース主任	アドミッションポリシーに基づいて
5	10月31日	農学入門5	森林・国際 コース主任	アドミッションポリシーに基づいて
*実施方法は各コースに任せるが、各コースの教育研究分野を題材に、グループワーク・日本語技法の一環としてプレゼンテーションを行わせること。				
6	11月14日	分野別演習 約20名	各コース主担当教員	教員による情報提供
7	11月21日		各コース主担当教員	教員による情報提供
8	11月28日		各コース主担当教員	情報集約、プレゼンのテーマ決定
9	12月5日		各コース主担当教員	情報集約・グループ内発表・プレゼン準備
10	12月12日		各コース主担当教員	プレゼンテーション・相互評価・振り返り・レポート
11	12月19日	分野別演習 約20名	各コース主担当教員	教員による情報提供
12	12月26日		各コース主担当教員	教員による情報提供
13	1月9日		各コース主担当教員	プレゼンのテーマ決定
14	1月23日		各コース主担当教員	情報集約・グループ内発表・プレゼン準備
15	1月30日		各コース主担当教員	プレゼンテーション・相互評価・振り返り・レポート

##### (2) 教育学部

教育学部(学校教育)

回数	月	日	曜日	内容	担当
1	10	1	木	第1回:各教員のテーマ紹介とセミナーへのクラス分け	全教員
2		8	木	第2 - 6回:講義	全教員
3		22	木		全教員
4		29	木		全教員
5	11	12	木		全教員
6		19	木		全教員
7		26	木	第7回:セミナー別1	各担当教員

8	12	3	木	第8回:セミナー別2	各担当教員
9		10	木	第9回:セミナー別3	各担当教員
10		17	木	第10回:セミナー別4	各担当教員
11		24	木	第11回:セミナー別5	各担当教員
12	1	7	木	第12回:セミナー別6	各担当教員
13		14	木	第13回:セミナー別7	各担当教員
14		21	木	第14回:セミナー別8	各担当教員
15		28	木	第15回:最終レポート作成/評価	各担当教員

なお生涯教育課程においては4クラスがそれぞれ独自の内容で行っている。

### (3)理学部

回数	月	日	曜日	内容	担当	備考
1	10	7	水	ガイダンス	学務委員長,各コース世話役	1
2		14	水	理学入門(コース紹介)	数学	
3		21	水	理学入門(コース紹介)	物理科学	
4		28	水	理学入門(コース紹介)	生物科学	
5	11	4	水	理学入門(コース紹介)	地球科学	
6		11	水	理学入門(コース紹介)	情報科学	
7		18	水	(推薦入試のため休講)		
8		25	水	理学入門(コース紹介)	化学,応用化学	
9	12	2	水	理学入門(コース紹介)	海洋生命分子工学	
10		9	水	理学入門(コース紹介)	災害科学	
11		16	水	学生によるコース選択(調査)	学務委員長,各コース世話役	
12	1	6	水	コース別演習1	各コース教員	2
13		13	水	コース別演習1	各コース教員	
14		20	水	コース別演習2	各コース教員	
15		27	水	コース別演習3	各コース教員	

1:各コースが1回ずつコース紹介を行い,12月16日にコース別演習を希望するコースを選択する。(実質的に1年生終了時に決定する主専攻コースの選択になる。)

2:各コースに分かれて演習を行う。内容は各コースに任される。

### (4)人文学部

#### <人間文化学科>

人間文化学科では情報収集方法、レポート作成方法、ゼミナール受講方法など大学に特有で本学科で重視する勉強方法を習得することを目的に、10クラスを開設し、受講生の

希望をもとに1クラスあたり11名にクラス分けして実施した。

#### < 国際社会コミュニケーション学科 >

授業名: 学問基礎論(国際社会)

授業担当教員: 学科教員全員

受講生数: 94名

授業方法: オムニバス形式の講義(専門ゼミナールの授業内容紹介)と 学生の発表(各位の研究テーマ等)、ならびに講演会(「国際人という名の非(反)国際人 ~ する側とされる側について考える ~」)

#### < 社会経済学科 >

社会経済学科では、担当教員(14名)がそれぞれに演習を実施しており、テーマや方法なども担当教員にまかされています。

## 2. 授業アンケート実施状況

今年は共通の授業評価アンケート用紙を用いた5・14週目アンケートの実施及び授業改善アクションプランの作成・提出が人文学部及び教育学部の計30クラスで実施された。各教員がそれぞれアンケート結果を自己評価し、反省及び改善に役立てているので、ここではその中に書き込まれたアンケート実施形態への要望を抜き出して記録に残しておく。

・設問5の質問文で問うている資料・教材は「配布された紙」や「ビデオ」であり、「本物の」「現実の、生きた」資料のことは含んでいないため、質問文の改善を強く要望する。

・設問3の質問文について「予復習」に「宿題」が含まれる旨明記するなど、質問文の改善を強く要望する。

・「アクションプラン」というやり方は、教員の事務負担を増やすデメリットが非常に大きく感じる反面、メリットが見えない。

・アンケート疲れか、自由記述欄の記載は全くなかった。アンケートは本当に調査すべき課題がある授業に絞るべきである(悉皆調査は、毎年行う必要はなく時間の無駄である)。

・悪い授業に悪い点をつけることは当然だが、授業改善につながらない評価も排除すべきである。2点以下の点数をつける場合、自由記述欄に不満な理由を記載させるべきである。

農学部ではFDでアンケートを選ばなかったため実施されていない。

理学部では14週目アンケートに変えて学部独自のアンケートを実施し、次のような分析を行った。

- ・1年生の終了時に主専攻のコースを選択するという理学部のシステムについてどう思いますか という問いに対してほとんどの学生が「良い」と答えていた。大学に入ってから1年程度悩む余裕があるというのが主な理由であった。

- ・このような授業を1年生の2学期に実施することに関してどう思いますか という問いに対して、1学期にしてほしかったと答えた学生は全体の15%程度だった。理由としては、各コースでとる必要のある授業が1年生から異なっているので、コース紹介を聞いて変えてみようと思っても実際上難しいという点が考えられる。コース紹介からコース選択までの期間を長くしてほしいという意見もあった。そこで、今後の改善の可能性として、コース紹介の部分を1学期の大学基礎論の時間帯に持ってくるとよいかもしれない。



### 3 - 5 人文分野分科会

人文分野分科会副分科会長 市村高男(教育学部)

#### 1. 授業アンケート実施状況

人文分科会では、2学期末アンケートを準備する時間的な余裕がなく、今年度は分科会全体としてのアンケートは実施しなかったが、2人の担当者が主体的に行っている。5・14週アンケートは16人が実施した。このうち3人は5週アンケートのみで、さらにはアクションプランを示さなかった担当者も1人いた。

#### 2. 授業アンケートの結果

##### (1) 2学期末アンケートの結果と若干の分析

アンケートを実施した2件は、受講生数208人の大規模授業(A)、もう1つは受講生数69人の中規模授業(B)である。Aの回答数は208人のうち98人であり、Bの回答数は69人のうち47人であった。非回答者が欠席者であるとすれば、Aは53パーセントが欠席、Bは32パーセントが欠席したことになる。これがアンケート時のみの現象であったのかどうか判断しにくいところがあるが、Aの欠席率の大きさはやはり問題となるのではなかろうか。

平均点はAが3.75点、Bが3.29点であり、大規模授業のAの評価のほうが高かったことになるが、Aの欠席率53パーセントという数値を考慮した場合、単純な比較をするのは難しい。

質問項目の中で、両者が共通して高い数値を獲得したのは、「毎回の授業の目的や課題は明確に示されていますか」であった。また、共通して低い数値に止まったのは、「授業担当者の授業に熱意を感じますか」であり、とりわけAは全体を通じて最低の数値を示している。これがAの欠席率53パーセントを導き出したとも考えられるが、その一方で、Aは「授業担当者は、受講生が質問や意見を述べやすい環境を作り、また質問や意見に回答していますか」などで高い数値を得ており、受講生の意識を読みとるのはなかなか難しい。

##### (2) 5・14週アンケートの結果と若干の分析

アンケートを実施したのは、物部キャンパスの1件を除けばすべて朝倉キャンパスであった。受講生数は、275人を最高に100人以上が4件、100～50人が5件、50人未満が6件(そのうち5件が30人未満)であった。

アンケートを1回しか取らなかったのは、100人以上の授業が2件、50人未満が1件であり、100人以上の授業の半分が2回目のアンケートに取り組まなかったことになる。

全体的な傾向を見ると、第5週目アンケートで各設問の平均点が4.0～3.0点の授業の多くは、第14週目アンケートでかなりの項目が上昇しており、形式的に見れば授業改善アクションプランが効果を発揮したことになる。しかし、その一方で、第5週目アンケートの各設問平均点が4.0以上の授業のすべてが、第14週目アンケートで平均点を下降させており、この二つの平均点の動態傾向は相半ばしている。

従って、前者のみを重視すれば、授業改善アクションプランが効果を上げたともいえようが、後者にも目配りしてみると、授業改善アクションプランの効果はほとんどなかつ

たことになる。実際、第5週目アンケートで高い数値を出した担当者の中には、授業改善の必要はない、とアクションプランの中で明記しているものもある。5週目までと同じように授業を続け、中盤以降、次第に息切れし、緊張がゆるんだ結果であろう。

それでは、第14週目アンケートで平均点を上昇させた結果をアクションプランのみの効果と捉えてよいかどうかあるが、これは識者によって指摘されるように、どのような授業でも最初の評価はいったん低下し、そのあとで上昇傾向を示すのが一般的傾向であり、慎重に観察・検討を続けるべきであろう。

つぎに質問内容での数値を見ると、一部に目的・課題について3点台の担当者もいるが、目的・課題、声・話し方、説明などでは4点台に達している担当者が多く、授業改善アクションプランの提示の結果とは必ずしも関わりなく、授業に前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。

これに対して、大半の担当者が低い数値に止まったのは、進度・量について、学生に予習・復習を促したか、の設問に対する回答であり、とりわけ予習・復習については、1点台から2点台になっている担当者が多かった。進度・量については、試験の結果やレポートの内容でも受講生の理解度が分かり、主体的に次年度の授業に反映させることができるが、予習・復習の低い数値は、担当者がこうした行為を想定しておらず、それぞれの授業での説明・教材の工夫等で理解させようと努力していることと裏腹の関係にあり、この設問項目の数値のみを単純に強調するのは問題が残ろう。教科書の有無によっても、当然ながら予習・復習可能なものとそうではないものとに分かれる。

### 3. 若干の考察

授業アンケートは、中身をまったく問わないものであり、授業の形式的な面についてのみ、学生たちの意見を求める内容になっている。従って、担当者によって与えられた学生の授業満足度の数値は区々であり、それについても彼らが何に満足したのか不明である。本来、授業評価というのであれば、その内容を含めた全体を問うべきであり、この点に蓋をしたまま形式的な設問を繰り返すことにどれほどの意味があるのか疑問である。

### 3 - 6 社会分野分科会

社会分野分科会副分科会長 是永かな子(教育学部)

今年度は 14 の科目で 5 週目アンケートを実施した。

そして 13 の科目で 1 4 週目アンケートを実施した。

また 12 の科目で授業改善アクションプランが提出された。

以上を総合的に比較し、良い結果をもたらした取り組みについて以下に記述したい。

・内容が充実している「授業の省察」つまり授業改善アクションプランとは、学生のニーズと教員の教育意図とのすり合わせであろう。5 週目アンケートで示された学生の意見に迎合するのではなく、アンケートから学生の「現状」や「ニーズ」を教員が理解すること、それを受けて教員は教育意図を講義中に随時説明したり、講義の目的を講義中に意識的に強調したりすることが必要であろう。5 週目アンケートがなぜそのような結果になっているかを教員が分析し、具体的な改善方策を試行することが、学生と教員の位置を近づけることにつながる。教員が学生に合わせるだけではなく、学生を「引き上げる」ための具体的な方法を検討している授業改善アクションプランが有効であったようだ。

・学生予復習の項目は評価が低く課題であったが、予習のポイントや材料を事前に提示すること、復習のポイントを講義中に強調する対応が有効であった。

・授業全体の計画・シラバスのみならず、毎回の授業をいかに工夫していくかが肝要である。講義では、前半伸びてしまって後半早口になることを改善すること、最初の一口豆知識の時間を 10 分以内にする、最後に教員がコメントをする時間を設定することなど、学生が毎回の授業で感じている「違和感」を少しでも一回一回の授業で改善するかの努力が有効であった。

・90 分間の構成の再考も必要である。講義、質問、討論、グループワーク、個別指導などを組み合わせ、飽きさせない授業の工夫が求められる。とくにグループワークを用いた講義は評価が高いので、教員だけがしゃべるのではなく、教員が用意した課題設定のもとに学生がしゃべる場・主体的に考える場を準備することは大事である。

・少人数の講義はいかに個をみていくか、どのように学生とコミュニケーションをとるかが勝負である。学生は個人を見てほしいと思っているし、「宿題を個別に確認することで個々人の理解度を確認することができた」と教員自身が評価したコメントもあった。20 人に達しない講義では 1 人の意見であってもいかに拾い上げるか、個別に話しかけるか、多様な学生を前提としたかわりをおこなうかが学生の満足度につながるだろう。

・学生が理論と現実社会を結び付けるためには、学生に身近な具体的事例を取り上げられるかがポイントである。学生が普段の生活で目にするような事例であれば、自ずと関心・意欲の向上、そして予復習の着手につながるであろう。

### 3 - 7 生命・医療分科会

生命・医療分科会副分科会長 野田智洋(医学部)

#### 1. スポーツ科学講義

本年度も、岡豊キャンパス開講のスポーツ科学講義においてのみ、授業評価アンケートを実施した。(設問 14) 全体としてこの授業にあなたは満足していますかとの評価は 4.4 と良好な結果を示している。

表 1 スポーツ科学講義(生命・医療分野)集計結果(評価項目と平均値および標準偏差)

質問項目	平均値	SD
(1)1 毎回の授業の目的や課題は、明確にされていますか	4.26	0.86
(1)2 教員の声や大きさや話し方は、聞き取りやすいですか	4.73	0.55
(1)3 教員の授業内容の説明は、分かりやすいですか	4.55	0.62
(1)4 授業の進み方は、あなたにとって適切ですか(速すぎる、適切、遅すぎる)	3.25	0.63
(1)5 授業で要求される学習内容の量は、あなたにとって適切ですか (多すぎる、適切、少なすぎる)	3.29	0.65
(1)6 配布資料・視聴覚教材・テキストなどは適切に利用されていますか	4.55	0.70
(1)7 教員は、受講生が質問や意見を述べる機会をつくり、それらに答えていますか	3.73	1.17
(1)8 授業に対する教員の熱意を感じますか	4.55	0.68
(1)9 あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか	4.03	0.86
(1)10 あなたは、この授業の予習や復習をしていますか	1.96	1.30
(1)11 あなたは、この授業によってこの分野への興味・関心が高まっていますか	3.95	1.02
(1)12 あなたは、この授業で身につけることを期待した知識や能力を得ていますか	3.88	0.97
(1)13 全体としてこの授業にあなたは満足していますか	4.43	0.79
(2)A この授業はあなたの今後の生活の参考になるものでしたか	4.24	0.89
(2)B この授業を受けたことで、スポーツについての知識理解が広がりましたか	4.39	0.75
(2)C この授業を通して、スポーツについて改めて考えるところがありましたか	4.23	0.94
(3) この授業の内容は、あなたにとって興味深いものが多いと思いませんか	4.38	0.85
(3) この授業の難易度は、あなたにとって適切でしたか (難しすぎる、適切、簡単すぎる)	3.12	0.61
(3) この授業の方法(動画提示)は、適切だと思いませんか (多すぎる、適切、少なすぎる)	3.29	0.67

自由記述欄での個別意見も、おおむね上記の好評価が反映されている。目立った意見を以下に、例示しておく。

- ムービーなどを適切に利用してくれたのでわかりやすかった。
- 体の仕組みについてより詳しく知ることができた。スライドでの授業も当初は目新しいもので非常に新鮮味を覚えた。
- スポーツに対して様々な角度から考えることで、非常に楽しく学ぶことができた。
- スライドが工夫されていて、毎回楽しく受講できました。半年間ありがとうございました。
- 授業内容よりは受ける態度の悪い学生が多い点が気になった。分かりやすくとても満足できる授業だったと思っています。
- おもしろい授業でした。様々な映像が興味深かったです。
- 採点基準がいまいちつかめず、やや納得できないことがたまにあった。

(以上原文のまま)

## 2. 健康

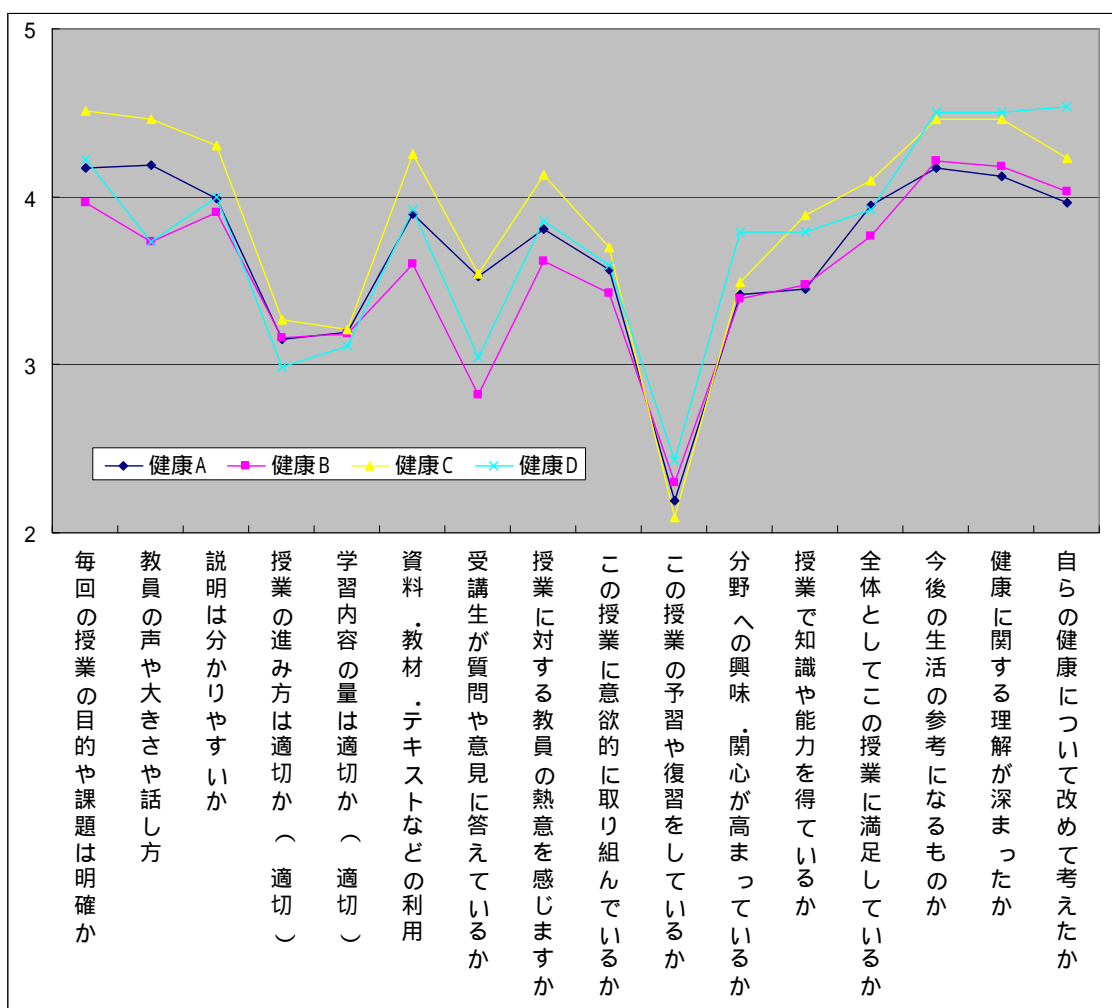


図1 平成21年度「健康」4クラスの授業アンケート結果

今年度1学期に行われた「健康」を対象として学生による授業評価アンケートを実施した。一昨年度まで基軸科目として必修で行われていた「健康」は、カリキュラムの変更により、平成20年度から選択科目となり、今年度より「健康」AからDまでの4クラスが開講されている。回答者数はAが163名、Bが130名、Cが63名、Dが63名である。受講学生の人数にはばらつきがあるが、同一の科目として4クラスの各質問項目の平均値を図1に示した。

図のように各クラスとも、ほぼ同様の傾向を示しているが、「教員の声や大きさ、話し方が聞き取りやすいか」、「質問や意見を述べる機会を作り、それに答えているか」の項目で、ややばらつきがあった。また、各項目の得点平均はほぼ、例年通りの傾向を示している。

授業評価アンケートの集計結果を担当教員にフィードバックした時点で、指摘を受けていることであるが、本授業はオムニバス形式のため、この形式のアンケートで評価された内容が自分の担当授業の問題なのか、他の教員の問題なのかを特定できない。今回は、学生からも「回によって担当者が違うので評価は辛い」との意見が出されている。現在のアンケートで、集計や分析に多大なエネルギーを使っても、この結果が直接授業改善には結びつかない状況にあり、大きな問題だと感じている。

自由記述欄の個別意見には毀誉褒貶あり、問題とし得る統一的な見解は見いだせなかったため、目立った意見を以下に例示するに止めたい。

- 先生のせいじゃないけどうるさいです
- オムニバス方式っていうのがいいと思います。
- 健康Aの授業は、タバコや食生活のことなどとてもくわしく学べるので普段の生活にとっても生かれます。
- お酒と煙草の話がとても興味深くとても勉強になり、楽しかった
- 今まであまり健康について考えなかったけれど、日々の生活をしていて意識するようになった
- 話を聞いてレポートを書かなければいけなかったのに、寝ずに聞くということが出来る授業やったのでよかったです。
- ひとり暮らしになって、体調管理をきちんとしないと、きついなと思った。
- 健康について詳しい話が聞けるので、とても、ためになる授業です。分かっていたつもりで、実は分かってなかった事なんかたくさんありました。
- 他の講義と比較すると、先生方のやる気があまりないように感じた。おそらく、1人の先生が半年間通して講義をするわけではないため、先生方も、責任感を持って授業していないのではないだろうか。一般常識的な知識を授業ですっと話していたような気がするが、ほとんど知っていたので、得られるものが少なかった。
- スライドの字がちっさい
- 健康についての先生のお話がかなり重複していたので、そこを改善してほしい。生徒になにか実験するなどしないとねむくなる。
- 1つの講義で色々な先生から話を聴くことができるのでいいことだと思う。
- 今までこれがダメだといわれていたことの原因をすることができて、楽しかったです。
- 後方に座っている生徒が少々うるさい。小テストの時、容易にカンニングしていた生

徒が多数見受けられ、残念だった。授業自体は、健康に関する知識も全体的に補強され楽しかった

- 回によって担当者が違うので評価はし辛い
- 授業はていねいで分かりやすく良いが、あまりに私語をする人が多すぎる。
- 高校までの授業ではあまり興味のもてるものではなかったけどパワーポイントでみやすく示されて分かりやすかった。
- 健康Aはオムニバス形式で様々な先生のお話を伺うことが出来て、楽しかったし、私の生活にも活かせる知識をたくさん得れたので良かったです。ありがとうございました。
- スライドはなるべく長く流してほしい。板書はなるべく大きく濃い字で書いてほしい。もうちょっと大きい声で話してほしい。
- 適度に話を振り、発言へ機会を頂いたのに応えられなかったことが心苦しい。
- 日常生活に役立つ知識を身に付けることができる。
- 健康について詳しく知ることができたから、これから、もっと、自分の体をもう1度みつめなおしてみたいと思った。
- 大学生活を考えると、1学期の授業の中で最も役に立つ授業だったと思います。特に心身症を学ぶ機会があったのは良かったことだと思います。主にこれからの生活習慣の中で自分を改善するという内容だったので、それを生かすことができるように努力していきたいです。
- 健康について、ここまで深く考えたことがなかったから、とてもタメになりました。
- もう少し運動をして、健康的で規則正しい生活を送ろうと思った。生活習慣病や看護など様々な内容で毎回新たに知ることが多くて興味深かった。
- 専門的なことだけでなく、人生において大事なことも教えてもらえました。
- 授業担当が1回だけという先生が2~3人いたが、どの先生もとても良い話をしていてのに、1回分しか授業担当がなかったのは残念でした。担当の先生を少し減らして、担当回数を最低2時間はとって欲しいです。
- スライドを利用するのに電気を付けているので文字が見えにくかった。またメモをとりたいたのに、スライドを進めるスピードが早くて全然メモをとれなかった。マイクに声が全然入ってなくて、何を話しているのかわからない部分が多かった。
- 非常に興味深くおもしろかった。日々の自分の健康について考えるようになった
- 医学科の1年生の授業よりもよっぽど専門的で、モチベーションを保つ一助となった
- 1人暮らしをしている学生にとっては、とても役立つ内容だった。今後の健康に関する考え方がわかる内容で良かった
- 健康Dという太枠でサブタイトル的にテーマが変わっていくのはおもしろいとも思うが、授業全体としては断片的でまとまりがないように感じた。重複等を避け、有機的に「健康D」としてのまとまりをつくっていいのではと思った。
- 資料の文字数の割に進めるのが早く、書きとれない部分があった
- 健康についてさまざまな角度から学ぶことができたので、たくさんの知識が身についた。特に、これから気になる飲酒を取り上げた授業では、適切な飲酒の仕方を知ることができたので、それを心がけたいと思います。

- 1 人暮らしで、軽視しがちな生活習慣や健康について、考え直すいい機会になったと思う。この講義で学んだことをこれからの生活に生かし、自ら自分の生活を正す努力をしようと思った。
- 教養にもなり、今後の生活にも、しっかりと役立つものだと思います。
- この授業では、専門的な内容はあまりなく、日常生活で役に立つ事ばかりだったので、とても理解しやすく、日常生活でもすぐに使えそうでした。
- すごく興味のある分野でしたので、毎回楽しみに受けていました。どの先生も分かりやすく授業を下さって楽しかったです。病院通いの為毎回は受けられなかったのが残念でした。

(以上原文のまま)



### 3 - 8 自然分野分科会

自然分野分科会副分科会長 大谷和弘(農学部)

#### 1. アンケート実施状況

今年度は24科目で、5・14週目アンケートを実施した。そのうち、5週目のみアンケートを実施し14週目のアンケートを実施できなかった科目が3科目ある。学期末のアンケートは準備の関係から3科目についてのみ試行的に行った。

アンケートの集計と分析については、2回のアンケートが実施された21科目についておこなっている。

#### 2. 授業アンケートの集計結果及び分析

表1. 5, 14週目アンケートの平均点とその変化

	5週目	14週目	変化
設問1:目的・課題	4.5	4.3	-0.2
設問2:声・話し方	4.4	4.3	-0.1
設問3:説明	3.3	3.8	0.5
設問4:進度・量	3.8	3.5	0.3
設問5:資料・教材	4.1	3.9	-0.2
設問6:質問対応	3.7	3.7	0.0
設問7:熱意	4.1	4.1	0.0
設問8:学生意欲	3.6	3.7	0.1
設問9:学生予復習	2.8	3.0	0.2
設問10:学生興味関心	3.1	3.6	0.5
設問11:学生知識能力	3.6	3.6	0.0
設問12:学生満足度	3.4	3.8	0.4

授業アンケートの結果を表1に示す。

5週目アンケートの時点では、目的・課題設定、声量・話し方、資料、熱意の4項目で4点を上回っており、技術的な問題点は当初より少なかったものと推測される。一方で、説目に用いる用語や、学生の関心度、予習・復習の度合いは相対的に低い点となっていることから、多少説明が専門的すぎたのではないかと推測される。(自由記入欄より)

各教員は5週目アンケートの結果をそれ以降の授業に生かすようアクションプランを作成し実施した。その効果、14週目のアンケートではおおむね評点は向上しており、アクションプランの作成と実施は有効に働いていると判断される。とりわけ、5週目で評価の低かった

設問3:教員の授業内容の説明は、分かりやすいですか

設問11:あなたは、この授業によってこの分野への興味・関心が高まっていますか

設問12:全体としてこの授業にあなたは満足していますか

の3つの設問に対する回答に顕著な向上が認められたことは、教員の作成したアクションプランが効果的であったこと、5週目アンケートによるフィードバックが有効に働いていることを示すものである。また、進度に関する設問4は、適切であると判断される3点に近付いており、高評価を得ている。

アンケートの結果、予習・復習への促しについては、評点にほとんど変化がなく低い点となっている。しかし、科目によっては予習・復習といった事項がなじまないものもあり、共通教育科目の授業としてはある程度仕方がない面があると思われるものの、この点については今後の課題として取り組む必要がある。

### 3 - 9 外国語分科会

外国語分科会副分科会長 岡本克人(人文学部)

平成21年度に高知大学共通教育アクションプランの一環として授業アンケートが行われたのは、以下の10クラスにおいてである。

- 大学英語入門(中級) 2クラス(1学期)
- 大学英語入門(上級) 1クラス(1学期)
- 大学英語入門S 1クラス(通年)
- フランス語I 1クラス(1学期)
- 中国語I 2クラス(1学期)と(2学期)
- 中国語II 1クラス(2学期)
- 基礎教育英語 2クラス(2学期)

なおアクションプランが平成20年度から3年間にわたっているため、ドイツ語のクラスについてのアンケートがないのは全くの偶然であろう。

アンケート項目(設問)については次のごとくであった。

1. 目的・課題
2. 声・話し方
3. 説明
4. 進度・量
5. 資料・教材
6. 質問対応
7. 熱意
8. 学生意欲
9. 学生予復習
10. 学生興味関心
11. 学生知識能力
12. 学生満足度

その他オプションの設問ができるようになっており、2, 3追加の質問をした教官が存在するが手元に資料がないのでここではふれない。しかし参考までに前年度に外国語分科会が追加した設問を紹介すると、

- A. 外国語や異文化に対する興味を啓発されましたか
- B. 文法事項に対する説明はわかりやすかったですか
- C. あなたはこの授業に積極的に参加(自発的発言や質問等)しましたか

であり、これら3項目は外国語科目担当者としては是非聞いてみたい項目であるので、

似通った設問であった可能性が高い。

さて上記設問に対する統計は数値と、視覚的理解のために一つの多角形のグラフと共に担当者のもとに返され、残余の週の授業のための参考資料となったわけであるが、これは従来と同じ方法である。グラフの傘の開きぐあいが広いほど、その授業はうまくいっていると一応は判断できるが、教官側と学生側という次元の違うものが一元化されているのは、やや分かりにくく感じる。少なくとも、二つの多角形グラフにまとめてはどうであろうか。また、統計というものが実際はかなり難しいことはよく知られているが、アンケート内容そのものの検討を試みる必要があるかもしれない。

アンケートの結果を全体的に見ると、少なくとも今回対象となった授業では、わりあいによい点が出ており、先生方の努力、また学生側の意欲が感じられた。ただグラフを見ると、進度・量のところがへこんでいるものが多く、ここはなかなか難しい点であることが分かる。つまり教官側はある種のノルマやここまでは分かって欲しいという希望があって、あまり進度をゆるめられない、しかし学生はついていけないのもっとゆっくり進めて欲しいということであろうが、学生の自主的な勉強が足りないともいえる。学生予復習の項が 3.3、3.1、3.3、3.2 とかなり低い教室があり、それを如実に表しているようである。

アンケートのあとにはアクションプランが教官側から提出されるわけであるが、これは本来授業改善案の提示ということになっている。しかし教官の生の声(?)が聞こえてくるようないくつかの発言があったので以下に記したい。

○「予習の量が多すぎる」、「問題が難しすぎる」との意見が数名いた。しかし、語学の能力を伸ばすには、継続して問題を解き、難しい問題でもチャレンジしていかなければ語彙数やイディオム、読解力は身に付かない。楽をして語学の能力を高めることは不可能である。

○現在は50名を超える人数が受講しているが、語学というものは、1クラス、多くても25-30人編成にしないと技能・学力が向上しないだろう。少人数制のクラス編成をお願いしたい。

○〔学生からの厳しいという声に対し〕今回は〔教官側としては〕全く改善すべき点はない。評価の基準の変更要望やテキストが難しいという指摘は、シラバスを熟読していないごく少数の者の意見であるからだ。それらを尊重し、翌週から評価の基準やテキストを変えることは大多数のものの不利益に繋がるし、(以下略)

○授業の進度・量について、「速すぎる・多すぎる」との回答が目立った。ただ、本授業は、専門授業への橋渡しとして、多くの○語〔言語名はふせることにする〕を苦痛なく読むことができる「スタミナ」を身に付けることを目標としているため、授業を行なう側としては、ある程度の進度・量をキープすることが必要だと考えている。

上記に引用させていただいた文は、アンケートの点数的には結構学生の評価が高い教官のものである。いい教育を施したいというのは教育者として当然の気持ちなのでことば

の背後から先生方の苦悩のようなものが伝わってくるが、学生の意欲低下、学力低下は全国的な現象でもあり、今後ともよい教育の現場作りのための努力を継続していくしかないといえよう。

### 3 - 10 キャリア形成支援科目分科会

キャリア形成支援科目分科会分科会長 高橋俊(人文学部)

キャリア形成支援科目分科会では、分科会教育目標「学生のキャリア形成に必要なプログラムを開発・提供する」に基づき、平成 21 年度は「キャリア系科目と教職科目との連携をはかりつつ、FDやカリキュラム編成等に力を入れ、新たなキャリア形成教育プログラムの開発・試行を目指す」活動を行った。

自己点評価に関しては、今年度は、特筆すべき活動は無かった。

### 3 - 11 スポーツ・健康分科会

スポーツ・健康分科会副分科会長 野田智洋(医学部)

#### 1. スポーツ科学講義

平成 21 年度は、2 学期に行われたスポーツ科学講義 A から D と、岡豊キャンパスで行われた講義で 5 週目 14 週目アンケートを実施した。図 1 のように 14 週目アンケートの学生満足度はすべての講義で 4 を越えており、大きな問題なく実施できていると考えられる。設問 9 にみられるように、共通教育科目としてのスポーツ科学講義で、学生が予復習をしていない実態をどう捉えるべきかについて異論があるかもしれないが、少なくとも医学部の状況を勘案すれば、対応の必要がないと考える。

講義 A と D で、設問 6 の質問対応に関する評価が低いのが、授業形態や受講学生数にも影響を受けやすい項目であるため、何らかの不都合があるかもしれない。

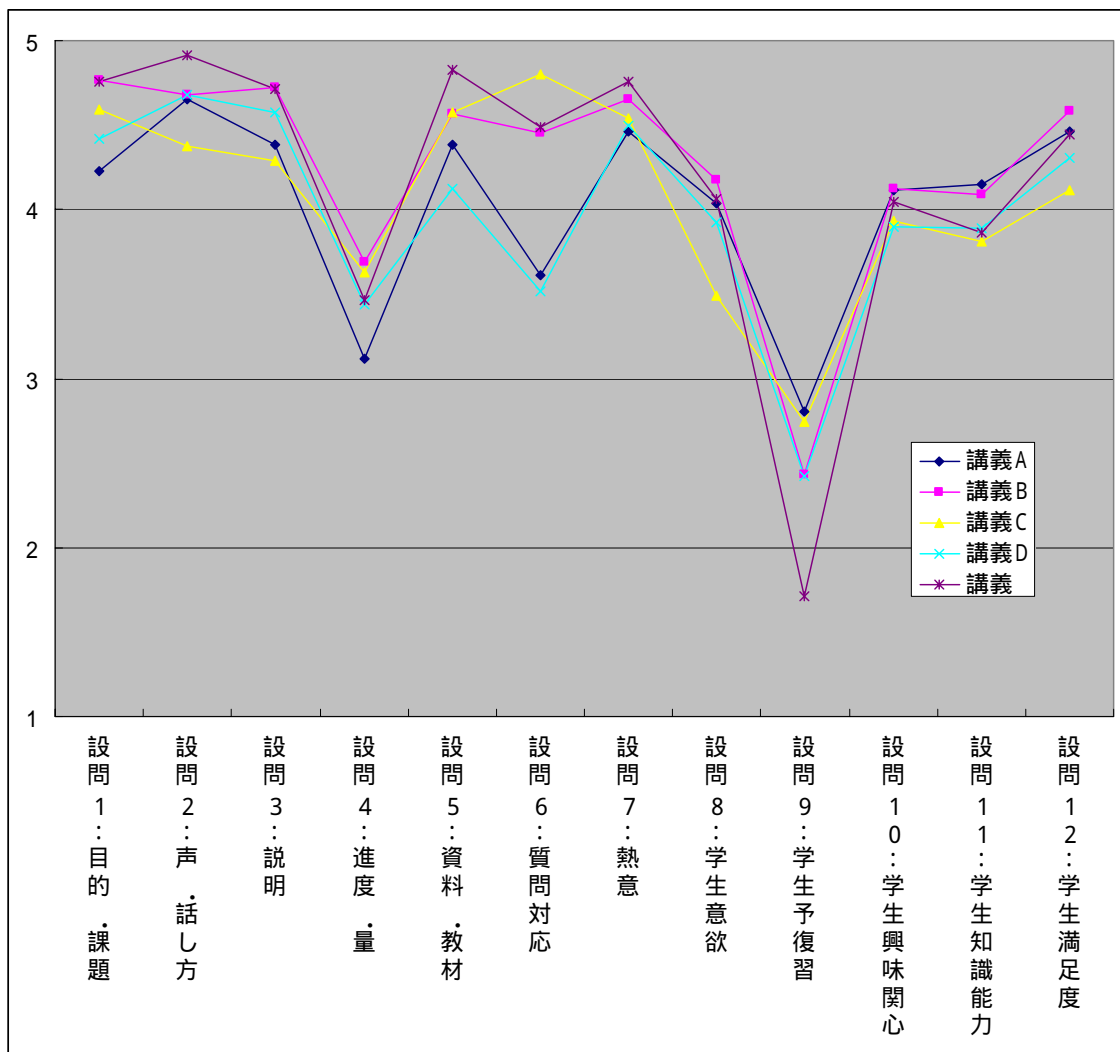


図 1 平成 21 年度 2 学期 14 週目授業評価アンケート集計結果

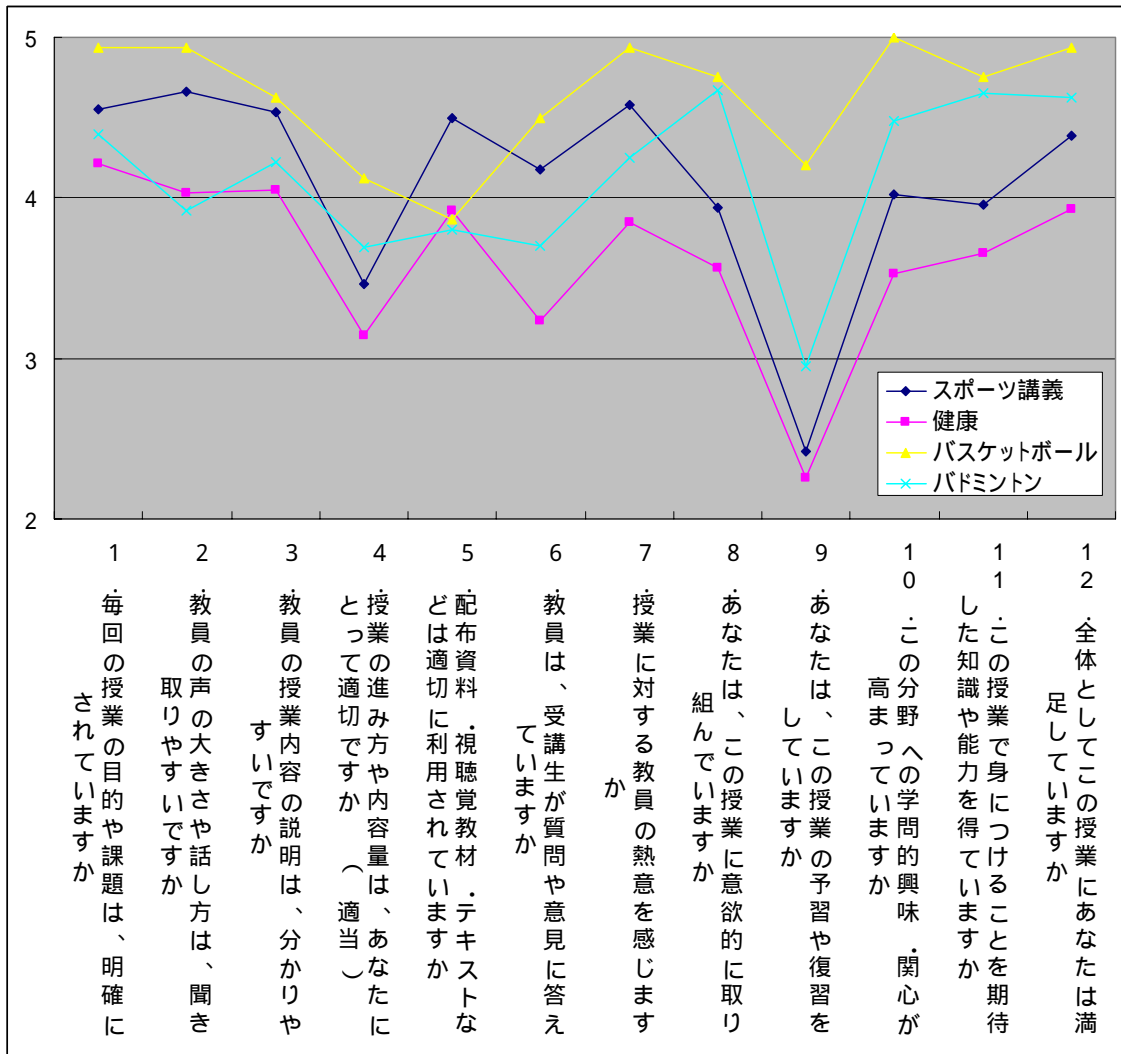


図2 平成21年度1学期「健康」と2学期「スポーツ科学講義」の比較

次に、1学期に実施した「健康」AからDの学期末アンケート平均値と、スポーツ科学講義の14週目アンケート平均値を比較したものが図2である。学期末アンケートの項目は、14週目アンケートと一点のみ異なり、設問4が授業の進度と、内容・量に分割されている。今回は「健康」の設問(1)5「内容・量」の評点を削除し、「(1)4 授業の進み方は、あなたにとって適切ですか (速すぎる、適切、遅すぎる)」と比較した。図のように、スポーツ科学講義の平均値は、すべての質問項目で「健康」に比べて高くなっている。なお、参考のため、5週目14週目アンケートを実施したバスケットボールとバドミントンの評価も表示してある。

## 2. スポーツ科学実技

今年度は1学期、2学期とも、すべての授業で授業評価アンケートを実施した。1学期に実施した種目は、ゴルフ、バドミントン、卓球、エアロビクス、バドミントン、バレーボール、硬式テニスである。



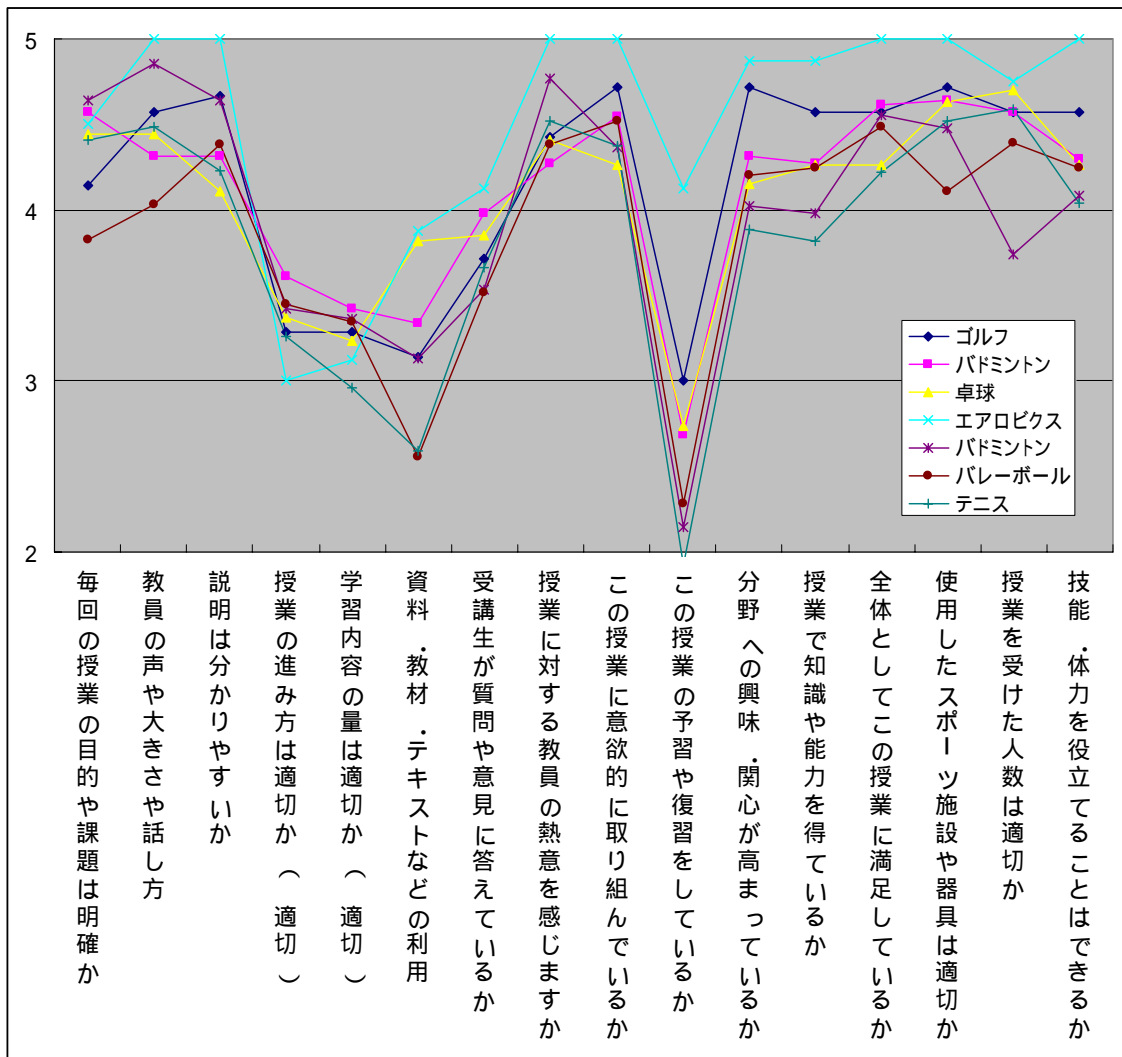


図3 平成21年度1学期授業評価アンケート集計結果

対象となった7科目の学生満足度(設問13)「全体としてこの授業にあなたは満足していますか」の評価は、エアロビクスが5.0、ゴルフと2科目あるバドミントンが4.6、バレーボールが4.5、卓球が4.3、硬式テニスが4.2であり、総じて高く評価されている。しかし、図3のように、(設問6)配付資料や視聴覚教材の利用が適切かどうか、(設問10)この授業の予復習をしているかどうか、に関しては低い評価がなされている。これら2問については、いずれの種目でもほぼ同様の傾向が認められ、授業方法に問題があるというよりは、スポーツ実技という科目特性に附帯する要因であると考えられる。なお、設問10で他の種目に比べてやや高い傾向を示しているエアロビクスとゴルフは、社会に出てからも継続して実践していく可能性が高いことを受講生が意識し易い種目であることが予想される。なお、この2科目は(回答した)受講生数が少人数である(8名、7名)ことが、授業全体の評価を高めた要因であることは否めない。受講生数が最多(47名)のバドミントンでは、(設問B)受講した学生数は適切でしたかの評価が、他の科目に比べて3.7と極端に低いことから推察できる。

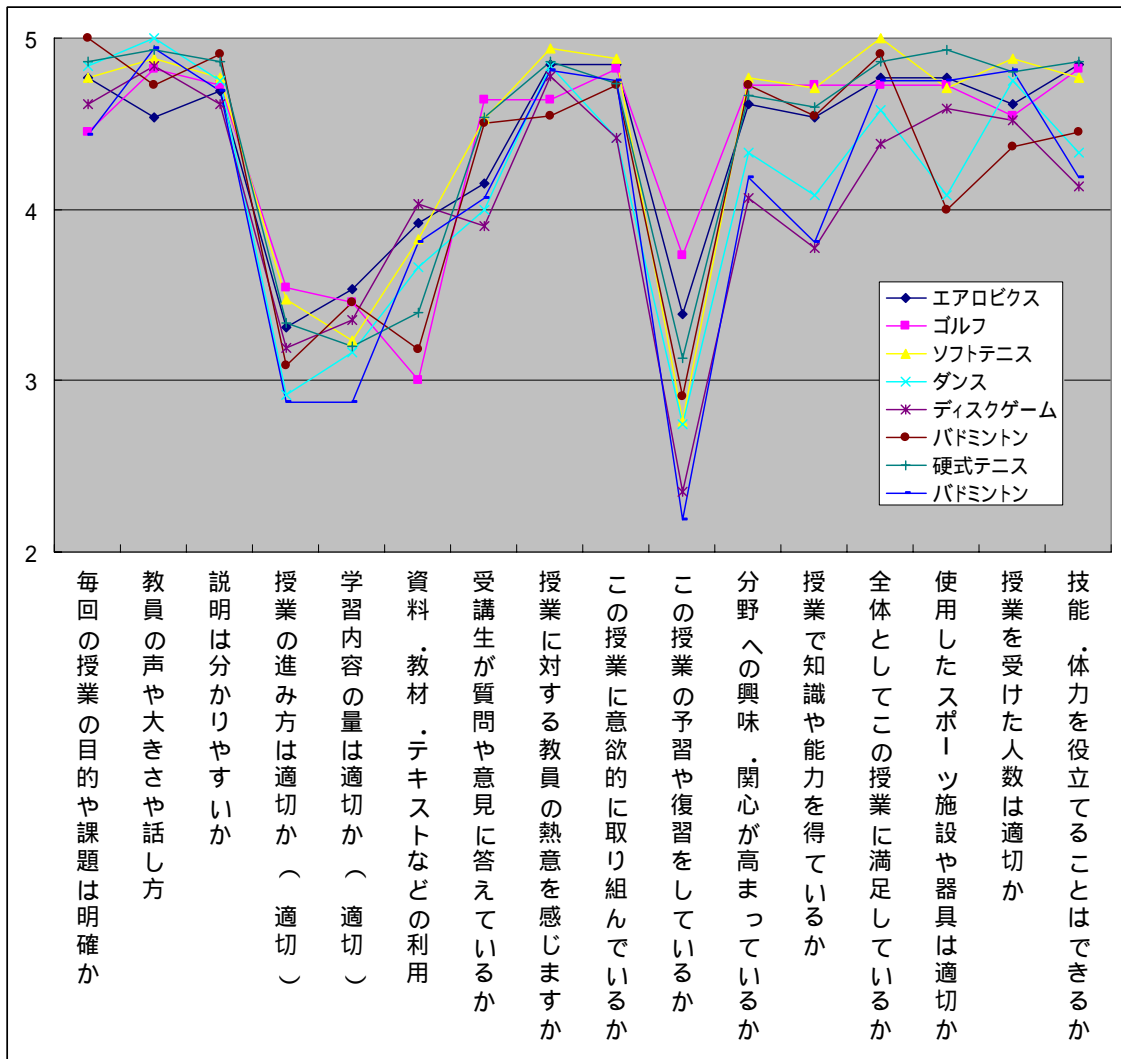


図4 平成21年度2学期授業評価アンケート集計結果

2学期にアンケートを実施した種目は、エアロビクス、ゴルフ、ソフトテニス、ダンス、ディスクゲーム、バドミントン、硬式テニス、バドミントンである。(5週目14週目アンケートを実施したバスケットボールとバドミントンは図2を参照のこと)図4のように質問項目に対する評価は、1学期とほぼ同様であるが、ダンスとバドミントンに関して、使用した施設や器具が適切ではないと感じた学生がやや多いのが気にかかる。

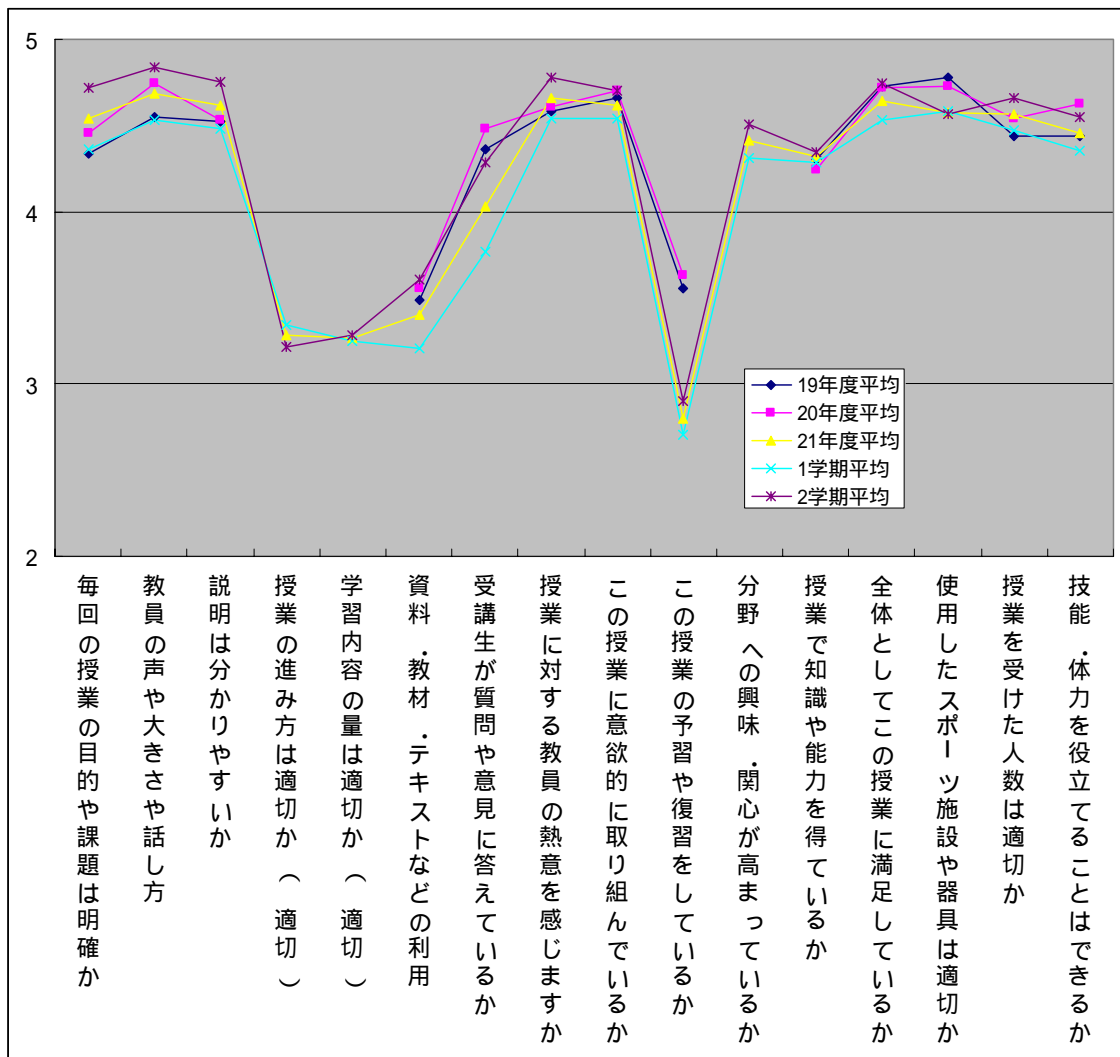


図5 平成19年度、20年度と21年度の1、2学期授業評価アンケート集計結果

図5は、平成19年度と20年度の2学期に開講された4種目と、21年度の1学期（7種目）、2学期（8種目）、通年の授業評価アンケート平均値を比較したものである。なお、21年度はいくつか質問項目が変更されており、19、20年度のデータがない項目がある。

図のように過去3年間の傾向は大きく変わっていない。設問10の予復習に関する質問項目は、19、20年度は「教員が予復習するよう指導しているか」との内容なのに対して21年度は「学生自身が予復習をしているか」であるため、平均値が厳しくなったものと考えられる。

特に、授業に対する教員の熱意、学生の意欲ともに高い評価を維持しながら推移しており、特別な支援や対策を講じる必要はないと考えられる。なお、今年度1学期の平均値は、2学期に比べてどの項目も評価が低い傾向があるが、40名を越える規模のクラスが2つあることが原因かも知れない。

スポーツ健康部会では、スポーツ科学実技に関して昨年度までと同様、次のような独自の設問を設定した。

「授業で使用したスポーツ施設や用具は適切ですか」

学習意欲を喚起するためには重要な要素である。4.58 と高い評価を得ているものの、昨年の 4.73，一昨年の 4.72 と比べるとやや低下している。

一緒に授業を受けた人数は適切ですか」

授業の成果を上げるためには適正人数がある。多すぎると練習の回数や機会が制限され、技術の向上にとってはマイナスの要因にもなる。今年度も 4.57 (昨年 4.54，一昨年 4.64) と高い評価を得ている。

「獲得した知識や技能，体力を今後の生活に役立てることが出来ますか」

これについては 4.45 と、昨年の 4.62，一昨年の 4.53 に比べて低下した。さらに生涯にわたっての運動実践や体力づくりなどの必要性を理解させるように工夫したい。

自由記述欄の意見も、おおむね上記の好評価が反映されているが、ネガティブな評価は、「体育館が暑い」というものが 2 件、逆に「体育館が寒い」というものが 1 件あった。「準備運動の量が多すぎる」という趣旨の意見も 2 件あったが、むしろ、傷害予防のために必要であることを重ねて説明することで対応すべきだろう。目立った意見を以下に例示しておく。

- とても楽しい授業で自主的に取り組むことができ満足している。今後も取り組みたいと思った
- ある程度までは先生が指示をする、それ以外は生徒にさせている、つまり自主性があり、すごくやりがいがあった。
- スポーツは心身の健康のために必要だと思った。この授業で友達も多くできたし、いい運動にもなった。また、バドミントンをしたいと思う。
- 全くの初心者でしたが、日毎技を習得してゆき楽しく試合ができるようになりました。相手の動きを見てバドミントンをするクセがついてよかった。
- 体育館競技で普段慣れていないので、その中で体を動かすのは大変でした。
- 楽しかったですが、技術的にうまくなっているかどうかは分かりません。
- 初めてのエアロビクスで不安だったけど、授業というより習いごと感覚で楽しくうけることができました。腹筋と柔軟がしんどかったけど、皆で乗り越えたのでなんだか楽しかった。
- 授業でやっているスポーツは、とても疲れを取ります。少しやせた感じです。
- 腹筋がぷるぷるします。効いてます。毎日寝る前にストレッチをする習慣がつかえました。腰痛がよくなりました。楽しくできました。
- ストレッチの大切さを知った。試合で体が良うごくし、その後ののいたみもなかった。
- 留学生であって、あまり学部生たちに会う機会がなかったんですけど、この授業を通して、いろんな人たちと楽しいゲームをすることができました。大学に入ってから、運動をする機会がなかったんですけど、この授業のおかげで元気になりました。
- ゲームに勝つことも大事ですが、それ以上に協力してものごとを行うことの大切さを知りとてもよかったと思いました。また、ゲームを通してたくさんの友達ができ、交流の輪も広がりました。週 1 回の運動でしたがとてもおもしろかったです。

- この授業で体力がついたと思う。運動するのは2年ぶりなのでいい汗かきました。
- ゲームは友達（ペア）と協力したり、助け合ったり、また、技術を身に付けることができるととても楽しく勉強になりました。
- 体育館はとにかく暑いです。風通しがあまり良くないと思いました。ウォータークーラーの水の勢いが弱いと思いました。
- 準備体操の量はもう少し減らした方がいいと思った。
- 楽しかったです。やっぱりバドミントンは楽しいです。でも、どうやったら強いスマッシュを下に打てるのかなど、もう少し詳しい説明があったら良かったと思いました。ありがとうございました。
- 上手い人をコーチにしてほしかった
- 少しでもバドミントンの技術が上がったような気がする。結果にも、最後には現れてきて、よかった。
- 技のポイントをおさえた教え方で、とてもわかりやすかった。
- 高校の時のバレーボールの授業とは、指導のレベルが違い、今まで知らなかったことや高いレベルのこと、ルールなどを詳しく教えてくれるので勉強になります。
- ゴルフに対して興味がわいたと共に技術もある程度向上させることができた。
- テニスというものを初めてちゃんとやって、難しさと楽しさを知った。時々やろうと思う。
- 初めて、この授業でソフトテニスをプレイして、とても楽しめました。また、チームワークで試合することの大切さを学びました。とてもよい経験になりました。
- 先生がすごく丁寧でわかりやすかったです。技術的な面での指導が多く、色々と身についたと思います。ラケットがもう少し新しい物が使えれば良かったです。
- 授業の前と後に心と体の状態を書く指導があったのですが、そのおかげで、運動をすることで体の状態が良くなったり、心も良い状態になるということが分かりました。
- ヨガが楽しいです。家でも取りくんでいます。
- 初めて経験した競技だったけど、とても面白いと思った。機会があれば、また挑戦してみたいと思う。このスポーツは風にすごく影響されるので、するなら風のない日がいいなと感じた。
- テニスは初心者でしたが、毎回楽しく授業に参加でき、テニスの技術も向上したと思います。
- テニスの基本を習うということができてとても楽しい。これからのスポーツ人生にも役に立つと思う。
- 体育館が少し寒かったけど、とても楽しい授業でした！

### 3 - 12 日本語・日本事情分科会

日本語・日本事情分科会副分科会長 大塚 薫(総合教育センター)

#### 1. 活動の概要

日本語・日本事情科目は、第1学期に「日本語 」、「日本語 」、「日本事情 」、「日本事情 」、第2学期に「日本語 」、「日本語 」、「日本語 」、「日本事情 」、「日本事情 」、が開講されている。

日本語・日本事情分科会では、2006年度～2008年度にわたって分科会独自の形式で授業評価アンケートを全科目の受講学生を対象に実施した。それにより、各授業の自己点検評価活動が行われるとともに、共通教育日本語・日本事情科目のあり方を考えていく基礎資料とすることができた。

それを踏まえて、2009年度は、日本語・日本事情分科会では「学期末授業評価アンケート」は行わず、教育力向上3カ年計画に基づく「5・14週目アンケート」に関する自己点検評価活動を個人ベースで実施した。実施した授業は第1学期、第2学期ともに日本語科目の1科目である。

#### 2. 2009年度1・2学期の授業評価アンケート

- ・アンケート実施時期：2009年度第1学期  
2009年度第2学期
- ・回答総数：2009年度第1学期 受講学生 22名  
2009年度第2学期 受講学生 17名
- ・アンケート内容：5・14週目アンケート

#### <結果>

学生の満足度(設問12)は5週目アンケート時で5点満点中平均4.3点、14週目アンケート時で5点満点中平均4.4点であり、極めて良好な評価であると言える。自由記述欄においても「先生の説明が聞き取りやすい」「とても役に立ちます。いろいろなことを勉強しました」「大変満足しています。内容も方式も全部いいです」という肯定的な評価がなされていた。

また、「授業の目的や課題の提示」「声の大きさ・話し方」「授業内容の説明」「資料・テキストの利用」「質問対応」「熱意」に関しても全ての項目で平均4.5点以上の評価がされており、非常に高い評価であった。

これに対して、比較的評価が低かった項目は受講学生の授業への取り組み方に関するもので、「意欲的に取り組んでいるか(設問8)」は、5週目アンケート時で平均4.2点、14週目アンケート時で平均4.1点であり、「授業の予習・復習をしているか(設問9)」については、5週目アンケート時で平均4.0点、14週目アンケート時で平均3.6点であった。また、「この授業により、この分野への学問的興味・関心が高まっているか(設問10)」については、5週目アンケート時で平均4.1点、14週目アンケート時で平均4.3点であった。

さらに、「授業の進み方や内容量(設問4)」に関しては、5週目及び14週目アンケートに

において平均 3.3 点の評価であり、ほぼ平均値の評価を得ているが、「速すぎる・多すぎる」との回答が数名あった。また、授業に関する自由記述欄には「ときどき難しいことばがあるから、聞き取れない」という意見も少数あった。

なお、14 週目に行われた 5 週目アンケートのアクションプラン検証アンケートの設問については、全ての項目において 4.1 点以上であり、おおむね良好の評価を得ていた。

#### <分析>

以上のような結果から、受講学生は対象となった 2 科目に対しては、おおむね授業内容や授業方法、授業の難易度に関して満足していることが分かった。しかし、少数意見ではあるが、特別聴講学生(交換留学生)等の一部の学生は授業が難しく感じられ、受講生のレベルの差が大きいことに対する教員側の扱いが課題となっている。

また、5 週目アンケート時の評価より 14 週目アンケート時の方が評価が低くなった項目として、設問 9 の「学生の意欲」が 0.1 ポイント下がり平均 4.1 点、設問 10 の「学生の予習・復習」が 0.4 ポイント下がり平均 3.6 点になっていた。これについては、学生が最初の新鮮味がなくなり授業に慣れてきたこと、専門授業等で忙しくなったこと等が原因ではないかと思われる。学生の予習・復習については、授業時間外の課題の出し方を工夫したり、授業中に全員に向かって予習・復習を促すとともに、個別に声をかけたりすることの必要性を感じる。

# 平成 21 年度共通教育 FD 部会活動報告

部会長 立川 明

## 21 年度活動の概略

共通教育における FD 活動は分科会が主体的に行っている。各分科会の実施状況について以下にまとめた。

### 大学基礎論分科会

意見交換会の実施（課題探求実践セミナーと合同）

### 課題探求実践セミナー分科会

意見交換会の実施

OJT・FD の実施

### 学問基礎論分科会

第 5 週アンケートの実施

授業参観の実施

### 人文分野分科会

（まだ報告が届きません）

### 社会分野分科会

（まだ報告が届きません）

### 生命・医療分科会

意見交換会の実施

### 自然分野分科会

授業参観の実施

### 外国語分科会

大阪教育大学での授業参観に参加

学内での授業参観（ドイツ語）の実施

### キャリア形成支援科目分科会

特筆すべき活動なし

### スポーツ・健康分科会

第 5 週アンケート・アクションプランの作成

意見交換会の実施

中国・四国地区大学教育研究会への参加

### 日本語・日本事情分科会

5 週目アンケートの実施

FD セミナー・パワーポイント超入門への研修参加

全学 FD フォーラムへの参加

なかなか新たな取り組み、独自の企画の実施は困難なようである。これについては 1 学期の取り組みがほとんどできない事情もある。そこで、例年現委員に次年度 1 学期の FD を計画し、実施できる体制作りを年度内に行うことをお願いしている。また本年は部会による分科会の支援の一環として、以下のような提案を行った。

#### 分科会共通

ピア・レビューの実施

授業参観の実施

授業改善実践例（ビデオ撮影，コンテンツ化）

#### 大学基礎論分科会

ディプロマポリシー DP，カリキュラムポリシー CP の観点から授業の目的，内容，成果の評価（意見交換会，報告会）

OJTFD 教員の配置

#### 課題探求実践セミナー分科会

課題探求力に関する FD（調査・報告，意見交換会，講演会，Tips 作成）

DP，CP の観点から授業の目的，内容，成果の評価（意見交換会，報告会）

OJTFD 教員の配置

#### 学問基礎論分科会

DP，CP の観点から授業の目的，内容，成果の評価（意見交換会，報告会）

#### 人文分野分科会

サイエンスリテラシー科目の創設について（検討会，意見交換会，講演会）

大人数教育へのアクティブラーニングの導入（実践報告会，授業参観，講演会）



## 社会分野分科会

サイエンスリテラシー科目の創設について（検討会，意見交換会，講演会）  
大人数教育へのアクティブラーニングの導入（実践報告会，授業参観，講演会）

## 生命・医療分科会

受講生のニーズ調査と授業内容，評価内容（調査報告，意見交換会，講演会）

## 自然分野分科会

サイエンスリテラシー科目の創設について（検討会，意見交換会，講演会）  
アクティブラーニングの導入（実践報告会，授業参観，講演会）

## 外国語分科会

e-Learning の活用と効果測定（報告会，講演会，導入検討会）

## キャリア形成支援分科会

授業効果測定（調査検討会，報告会，講演会）

## スポーツ・健康分科会

授業効果の測定（調査検討会，意見交換会，講演会）

## 日本語・日本事情分科会

e-Learning の活用と効果測定（報告会，講演会，導入検討会）

残念ながらこれらの提案が充分生かされていないこと，年度計画や教育力向上3カ年計画についてもなかなか対応が難しい現状があるため，さらなる提案や支援を行い活性化の必要があると思われる。

## FDワークショップの実施

この他，大学教育創造部門と協力して，各種FDを実施し，FD部会を通じて参加を呼びかけているが，参加者が増えないのが課題である。現在の春季，秋季ワークショップは教員へのアンケート調査をもとにニーズのありそうな話題を取り上げて実施しているが，実施時期や時間帯についてもアンケート調査を行うなどして再度検討する必要があるとされている。今年度，実施したワークショップは以下の通り。

- ・パワーポイントの使い方 ・Wordを使ったWebページ作成入門 ・HTMLを書いてWebページ作成する方法
- ・TBL（文系向け，理系向け） ・オンライン学習支援システムの活用法 ・授業デザインとシラバスの書き方
- ・ファシリテーション入門 ・ファシリテーション上級

## 相互授業参観実施

日時: 11月24日(火曜) 1時限、

場所: 朝倉キャンパス共通教育311教室

題目名: 「物理学概論 1」

担当教員: 津江保彦 先生

内容: 電磁気学の基本

参観者: 国府(教)

国府です。授業参観の協力有り難うございました。

初等物理での電磁気学は力学に比べて教えにくい分野と痛感します。平易さに重点を置くと、実質的に高校の物理をもう一度繰り返す事になり(高校で履修していない学生には意味のある事ですが)最も大切な場の物理として性格がうまく伝わらない恐れがありますが、逆に場の物理として性格を最初から全面に出すとチンプンカンプンという学生が大量に出て来ます。私の場合、今だにうまい教え方が見つかりません。Maxwell方程式は最初に学ぶ場の方程式としては2種類のベクトルの連立した複雑な式なので、最初はもっと簡単な弾性論の場の方程式などから場の物理を学ぶ方が教育的ではないか?と昔から思っています。

津江です。参観をありがとうございました。共通教育ですが、実質、専門の基礎と考えて電磁気学を講義していますが、やはり難しく、教えるのに手こずっています。やはり、うまい方法が見つからず、正攻法(?)でいっていますが、短い時間(10回くらい)で一通り教えようと思うと、やはり無理がきます。短時間で真髓が伝えられる方法がないものでしょうか。質点の力学と違って電磁気は自分が学んだときも手こずりましたので困っております。

平成 21 年度学問基礎論のFD実施状況について、以下の通り、ご報告いたします。

## 1. 実施方法

人文学部：各学科とも授業評価アンケートを実施（5 週目及び 14 週目）

教育学部：授業評価アンケートを実施

理学部：独自のアンケートフォーマットにより、授業評価アンケートを実施  
（5 週目及び 14 週目）

農学部：相互授業参観を計 5 回実施した。

医学部：不明

## 2. 実施状況

	開講数	5 週目アンケート	アクションプラン	14 週目アンケート	アクションプラン
人文学部：人間文化	10	10	10	10	10
国際	1	1	1	1	1
社会経済	13	12	8	12	10
教育学部：学校教育	4	4	4	4	4
専科	1	1	0	1	1
生活環境	1	1	1	1	1

理学部：数学

海洋生命分子工学

物理科学

地球科学

生物科学

災害科学

化学

情報科学

学部独自のアンケートを実施し、各コースごとに集計した。

農学部：

年度計画の中で、教員の教育力向上が取り上げられており、その一環として、授業改善アンケート、学生による授業評価、相互授業参観の実施を進めることが明記されている。

学問基礎論分科会からのFD実施要請をうけ、本科目の授業内容とあわせてFDの実施案を作成した。後日、FD 実施結果が取りまとめられた。

## 本年度におけるF Dの実施

### ・相互授業参観の実施

各コースがどのような内容で本科目を実施しているのかを教員に広く知ってもらい、今後の授業改善に役立てるため、相互授業参観の実施を決定。参観結果はランダムに集計する。

## 本年度におけるF Dの実施結果

日時	参観教員	講義担当教員
10月28日	山口晴生	足立ほか
11月4日	柴山善一郎	荒川、松本、後藤、山本
11月4日	佐藤周之	松本ほか
12月9日	柏木丈拡	村松久司
12月9日	足立亨介	山口

---

医学部：詳細不明

以上

FD活動	2学期	<p>《他大学の授業参観》</p> <p>12月1日、大阪教育大学において、同大学の中野知洋准教授の「初級中国語」「中国語コミュニケーション」の二つの授業を参観し、中国語教育の方法やあり方について意見交換を行った。</p> <p>《相互授業参観》</p> <p>11月24日に、丸井一郎先生の「ドイツ語」の授業参観を行った。参観者は2名。終了後、意見交換を行った。</p>
その他		なし

## 生命・医療分科会

### F D活動実施報告

生命・医療分科会副会長 本間 聖康

#### 1. 意見交換

##### 健康（教養科目）

- ・ 必修から外れたことで開講授業数が少なくなったが、受講学生は多かったと思われる。
- ・ 必修から外れたが、専門教育のカリキュラムが優先されているためか、開講曜日・時間によって受講学生数に偏りが生じていると思われる。
- ・ 木曜日は、医学部学生が朝倉キャンパスで授業をとるようになってきていると聞いたが、そのためか空き時間を埋める形で希望でない授業を受講しているように感じられる。
- ・ 医学部学生が朝倉キャンパスで授業をとるようになってきているが、医学部が担当して開講していた健康の授業がなくなった。受講人数の調整や再履修者のためには開講が望まれる。
- ・ 同じ時間帯で健康A（約240名）・健康B（約155名）とあると、学生は健康Aの方を登録するので受講学生数のアンバランスが生じている。登録の時点では健康Aと健康Bには違いはない。何らかの対応が望まれる。
- ・ 健康Aでは、受講学生は240名程度であったが、2学期からの試験実施方法ではとてもテスト実施には対応できない。
- ・ 分科会がスポーツ・健康分科会と生命・医療分科会に分けられているが、健康（教養科目）が生命・医療分科会に含まれていることに違和感がある。生命・医療というところの授業内容については把握しかねる。
- ・

## スポーツ・健康分科会

### FD 活動実施報告

スポーツ・健康分科会副会長 本間 聖康

#### 1. 授業改善

- ・ 5・14週目アンケートの実施と授業改善アクションプランの作成
- ・ 期末授業評価アンケートの実施

#### 2. 意見交換

- ・ 専門教育のカリキュラムが優先されているためか、開講曜日・時間によって受講学生数に偏りが生じている。
- ・ スポーツ講義の受講生にも偏りがみられる。
- ・ 種目定員内に納まらなかったり、一方で受講生が少なく、ゲームやチーム編成に支障がある。
- ・ 受講生の少ない種目や小人数にしか対応できない種目の見直しが必要と思われる。
- ・ スキー種目は、技術の向上以外にも集団生活を通じて社会性や人間性の再認識に多いに役立っていると思われる。
- ・ スキー種目は、条件的に集中開講となるが、他の集中が多く開講されていることもあり毎年、最初から参加できなかつたり、オリエンテーション後集中授業が組み込まれたことにより参加を取り止めざるを得ない学生が生じている。
- ・ 2学期からパソコンでの授業登録となったが、スキー受講者で履修登録は行っているがオリエンテーションに出席せず、また、履修登録を抹消せずに取り止めている学生があり、宿舍やスキーのレンタルを確定するのが困難でかつ非常に手間がかかった。何らかの対策が必要である。
- ・ 非常勤による授業では、設備や道具の不備等に関して十分な対応ができていないと思われる。専任教員が少なくなっていること、また、同じ時間帯で専任教員も授業を行っていることも一因と思われる。
- ・ 4月からの授業に対して予算配分が翌年の1月頃(?)とあまりにも遅く、購入物品の支払ができなかった。
- ・

#### 3. その他のFD 活動

- ・ 中国・四国地区大学教育研究会に出席(5月30~31日)  
第1日目の第1部会「FD活動の現在そして未来」及び2日目の保健体育分科会「大学教育における保健体育の位置づけ」に参加しスポーツ健康分科会のFD活動を行った。